

市張名

令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金(基本枠、加算枠)事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報(平成30年度版三重県市町要覧による)

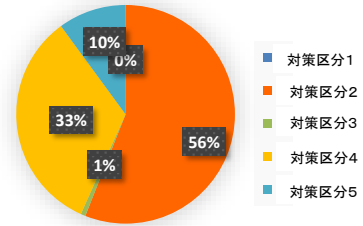
市町名	名張市	三重県
人口(人)	76,729	1,782,190
年少人口割合(%) * 1	12.4%	12.4%
森林面積(ha)	6,835.43	372,352.55
民有林面積(ha) * 2	6,835.43	348,833.49
森林率(%)	53.0%	64.0%
都市公園面積(m ² /人口) * 3	13.3	10.1

* 1: 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2: 国有林以外の森林(個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。)

* 3: 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金(基本枠・加算枠)事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費(円)	交付金充当額(円)(当年度交付金額+基金活用額)						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	危険木伐採事業	3,985,100	3,985,100		3,985,100				
2	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	633,550	633,550		633,550				
3	2	人家裏危険木伐採事業	2,220,000	2,220,000		2,220,000				
4	2	災害からライフラインを守る事前伐採事業	4,708,000	1,177,000		1,177,000				
5	3	森林環境教育推進事業	100,000	100,000			100,000			
6	4	県産材に親しむことができる木育推進事業	3,855,500	3,855,500				3,855,500		
7	4	学校林整備事業	900,000	900,000				900,000		
8	5	森林公園等環境活用整備事業	840,000	840,000					840,000	
9	5	桜並木保全管理事業	300,000	300,000					300,000	
10	5	無形民俗文化財保全事業	300,000	300,000					300,000	
計			17,842,150	14,311,150	0	8,015,650	100,000	4,755,500	1,440,000	0

3. 令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金(連携枠)(防災枠)事業実績

事業区分	事業量(ha・m)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	13.82ha	4,125,000	4,125,000	環境林・特定水源地域整備事業の実施(間伐)名張市 中知山、矢川 地内
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0.5ha	4,708,000	1,177,000	名張市 夏見 地内

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
名張市は、周囲を山々に囲まれた山間盆地であり、林野率は52.7%、人工林率は65.0%で、森林の主体をなす私有林においては、5ha未満の所有者が全体の52.1%を占めている。特に、南部は森林資源が豊富で、かつては優良な木材を産出する地域であったが、最近の社会情勢の変化に伴い伐採適齢期を過ぎても放置されている森林が急増し、里山としての利用すらほとんどなくなっている。 しかし、森林の持つ多様な公益的機能は市民にとってかけがえのない財産であり、名張市が目指そうとする「福祉の理想郷づくり」には欠かせない重要な要素であることから、森林の機能低下を防ぎその向上を図るため、災害に強い森林づくりとして森林整備を進めるとともに、市民が森と緑に触れ合う機会を創出し、森を育む人及び学びの場づくりを進める。
事業実施により期待される効果
「災害に強い森林づくり」に沿った事業の実施により、あまり手入れされることなく放置され、市民の生活圏を脅かしていた森林が整備されたことで、市民がより安心して暮らせるようになる。また、森林への関心が高まる今日、「県民全体で森林を支える社会づくり」に沿った事業の実施により、森林環境教育を推進し、次代を担う子どもたちが森林や緑に対する関心を深めることで森林の重要な役割に気付くきっかけづくりとなる。
情報発信への取組
事業内容やその成果については広報誌及びHP、ラジオ放送により、広く市民に周知している。また、事業実施現場にはのぼり旗や看板を設置することで、みえ森と緑の県民税の存在を最大限周知できるよう努めた。保育・幼稚園、小学校関連の事業については、保護者だより等で事業実施を周知するとともに財源にはみえ森と緑の県民税が活用されていることを記載した。 その他、令和2年度に実施した「森と人をつなぐ憩いの空間作り事業」で名張市役所1階に木製の授乳室を設置し、付近にみえ森と緑の県民税に関するパネルを展示することで、市庁舎を訪れる大勢の方に向けて県民税の周知に努めた。

第 11 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 4 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	① 意向調査の準備作業	3,080	1,540
2	⑩ 専門員の雇用	2,307	2,307
3	③ 私有林整備	504	504
4	③ 私有林整備	166	166
5	③ 私有林整備	1,456	1,456
6	② 意向調査	13,178	13,178
7	⑦ その他 (森林整備)	7,348	7,348
8			
9			
10			
	合計	28,039	26,499

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	危険木伐採事業					
事業費	3,985,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			3,985,100	0	0	

1. 事業の目的

市道、通学路等及び市有施設の周辺や緑地 (市有地) にあって、倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路施設・公共施設や市民の財産を保全し、暮らしの安心・安全を確保する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市道、通学路、スクールバス通路及び市が所有する公共性・公益性の高い施設 (小学校・中学校・保育所・幼稚園・公民館・市民センター・図書館等) の周辺にあって、台風等により倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。また、緑地 (市有地) にあって、台風等により道路や周辺の人家等に倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

名張市

【実施箇所及び箇所数】

市内16箇所

【事業量】

危険木伐採70本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

道路施設・公共施設や人家等への倒木を未然に防ぐことにより、市及び市民の財産の保全を図ることができる。

市道の危険木伐採により、台風時等の道路機能の寸断を防ぎ、避難所への経路が確保される。また通学路等の危険木伐採により子供たちの通学の安全・安心が確保される。さらに、公共・公益施設周辺の危険木伐採により、子供たちの学校等での生活における安全・安心と公民館等利用者の安全・安心が確保される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

住民からの要望がある箇所で危険度の高いところを選定し事業を実施した。

【新たな対策・視点及び改善点】

危険木の伐採にあたり一律に根元から伐採することは避けるなど、状況に応じた伐採方法を柔軟に選択する。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	危険木伐採事業					
事業費	3,985,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			3,985,100	0	0	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

道路に面した森林において、高度な技術を要する特殊伐採を実施するため、地元造園業者等へ委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	危険木伐採箇所を通行する名張市民多数
期待する波及効果	通行人からの波及効果が期待される

【公的関与の必要性】

道路管理として公的に取り組む必要がある

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

道路管理者が適切に管理する

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施箇所
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採	クレーン車使用	本	1.00	255,000	255,000	名張市 桔梗が丘4番町 地内
危険木伐採		本	10.00	286,000	286,000	名張市 池の台西 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	4.00	264,000	264,000	名張市 中知山 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	2.00	299,200	299,200	名張市 美旗中村 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	2.00	264,000	264,000	名張市 神屋 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	10.00	297,000	297,000	名張市 桔梗が丘5番町 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	3.00	218,000	218,000	名張市 美旗町中2番 地内
危険木伐採		本	5.00	99,000	99,000	名張市 つつじが丘南1番町 地内
危険木伐採		本	1.00	188,100	188,100	名張市 夏見 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	5.00	297,000	297,000	名張市 下比奈知 地内
危険木伐採		本	7.00	275,000	275,000	名張市 神屋 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	3.00	231,000	231,000	名張市 百合が丘西1番町 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	3.00	165,000	165,000	名張市 すずらん台西1番町 地内
危険木伐採	高所作業車使用	本	10.00	216,700	216,700	名張市 桔梗が丘6番町 地内
危険木伐採	クレーン車使用	本	2.00	145,000	145,000	名張市 すずらん台東3番町 地内
危険木伐採		本	2.00	485,100	485,100	名張市 百合が丘西1番町 地内
合計					3,985,100	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7 の (1) . 写真



写真1

美旗町池の台西地内 (施工前)



写真2

美旗町池の台西地内 (施工後)



写真3

市道桔梗が丘西原町線 (施工前)



写真4

市道桔梗が丘西原町線 (施工後)



写真5

桔梗が丘 5 番町地内 (施工前)



写真6

桔梗が丘 5 番町地内 (施工後)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業					
事業費	633,550 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			633,550	0	0	

1. 事業の目的
<p>森林所有者による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の活用を図ると共に、森林の健全化を図る。</p> <p>間伐材の搬出困難等で森林内に放置されている未利用間伐材を名張市内の森林から搬出及び運搬する経費を助成することで搬出を促進し、木質バイオマス燃料として活用するとともに、森林の持つ多面的機能の向上を図る。</p>
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>木質バイオマスの利用促進を図るため、未利用間伐材を名張市内の山林から伊賀管内の F I T に基づく木質バイオマス燃料買取実施場所までの搬出及び運搬に要する経費を助成した。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>事業に参画する林家</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>補助事業実施者：5名 整備が行われた山林：5箇所</p> <p>【事業量】</p> <p>未利用間伐材の搬出 253.42 t</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用率の低い未利用間伐材のバイオマス資源利用が推進される。 ・森林の健全化、未利用残材の処理を推進することにより災害時の林地残材の流失防止に繋がる。 <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>特になし</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>特になし</p>

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事業費	633,550 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			633,550	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	定額補助	2,500円/t	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった個人を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市民・県民多数
期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上

【公的関与の必要性】

木材価格が下落した昨今において、木材の搬出に公的関与が必要となる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

林家個人が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	----------------	-----	-----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	20.68	2,500	51,700	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	201.78	2,500	504,450	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	1.64	2,500	4,100	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	19.00	2,500	47,500	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	10.32	2,500	25,800	
合計					633,550	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7の(1). 写真



写真1

搬出状況写真



写真2

搬入状況写真



写真3

搬入状況写真



写真4

搬入状況写真



写真5

搬出状況写真



写真6

搬入状況写真

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
3	人家裏危険木伐採事業					
事業費	2,220,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,500,000	720,000	0	

1. 事業の目的
人家裏にある危険木を伐採することで、災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安心・安全を図る。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね樹高が人家と木との距離以上の木の伐採について、伐採に要する費用のうち 1 本あたり 10,000 円以内で助成を行った。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>地域住民 13 戸</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>13 件</p> <p>【事業量】</p> <p>394 本の危険木を伐採</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>災害時等に人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採により、災害を未然に防止し、住民の通常の暮らしの安心・安全が確保される。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>特になし</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>特になし</p>

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	人家裏危険木伐採事業				
事業費	2,220,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,500,000	720,000	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	定額補助	1件 上限 300,000円 1本当たり10,000円以内	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった個人を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市民・県民多数
期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上

【公的関与の必要性】

市民の生命及び安全な暮らしを守るために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

個人が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施前	市の広報誌（広報なばり）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採		本	40.00	7,500	300,000	
危険木伐採		本	86.00	3,489	300,000	
危険木伐採		本	32.00	5,000	160,000	
危険木伐採		本	100.00	1,100	110,000	
危険木伐採		本	3.00	6,667	20,000	
危険木伐採		本	27.00	10,000	270,000	
危険木伐採		本	10.00	10,000	100,000	
危険木伐採		本	10.00	10,000	100,000	
危険木伐採		本	30.00	10,000	300,000	
危険木伐採		本	5.00	10,000	50,000	
危険木伐採		本	30.00	10,000	300,000	
危険木伐採		本	15.00	10,000	150,000	
危険木伐採		本	6.00	10,000	60,000	
合計			394		2,220,000	

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

上長瀬地内 (施工前)



写真2

上長瀬地内 (施工後)



写真3

鵜山地内 (施工前)



写真4

鵜山地内 (施工後)



写真5

夏秋地内 (施工前)



写真6

夏秋地内 (施工後)



**不登校の子どもたちを支援する
「学生サポーター」募集**

学校へ行きたくても行けない子どもたちの学習支援などに関わっていただける「適応指導教室学生サポーター」を募集します。

◎詳しくは、問合せ先へ

☎ 市適応指導教室 (教育センター内)
☎ 63 - 7830



「河川愛護モニター」募集

期間 7月1日(木)～令和5年6月30日(金) 1年間

対象 月に1回程度、河川についてレポートをしていただける名張川、宇陀川、青蓮寺川付近に住む20歳以上の人

謝礼 月4,000円程度 申込期限 5月31日(火)

◎詳しくは、木津川上流河川事務所HPか、問合せ先へ



☎ 木津川上流河川事務所管理課 ☎ 63 - 1611



**高齢者肺炎球菌ワクチン
予防接種の定期接種を**

65 歳の人に、助成券のはがきを送付しています。**70 歳以上の対象者で、接種を希望する人は、「助成券」が必要です**(令和元年度から令和 5 年度までの 5 年間は、70 歳以上の対象年齢の人で、ワクチン未接種の人に限り、公費での接種機会を設けています)。事前に問合せ先へ電話などで申込をしてください。

接種期限 令和 5 年 3 月 31 日

自己負担金 3,000 円 (接種には助成券が必要)

対象者 下表に該当し、過去に一度も「23 価肺炎球菌ワクチン」の接種を受けたことがない人

対象年齢	生年月日
65歳	昭和32年4月2日～昭和33年4月1日
70歳	昭和27年4月2日～昭和28年4月1日
75歳	昭和22年4月2日～昭和23年4月1日
80歳	昭和17年4月2日～昭和18年4月1日
85歳	昭和12年4月2日～昭和13年4月1日
90歳	昭和 7年4月2日～昭和 8年4月1日
95歳	昭和 2年4月2日～昭和 3年4月1日
100歳	大正11年4月2日～大正12年4月1日

☎ 健康・子育て支援室 ☎ 63 - 6970



**「野菜の栽培・収穫体験」受講者募集
野菜作りに挑戦しませんか?**

日時 6月16日(木)、8月9日(火)

いずれも午前 9 時～ 11 時頃

場所 シルバーファーム(下小波田)

対象 市内在住の 60 歳以上でシルバー人材センターに入会希望の人

定員 10 人程度 ※先着順。参加無料

申込 6月3日(金)までにシルバー人材センターにある申込書を窓口へ提出

◎詳しくは問合せ先へ

☎ シルバー人材センター ☎ 63 - 6800



歯を失う原因第1位は歯周病

あなたは「歯周病対策」してますか?



☎ 健康・子育て支援室 ☎ 63 - 6970

歯周病は、細菌が歯を支えている骨を溶かしてしまう病気。成人が歯を失う原因の 1 位となっています。健康な歯を保つために家庭でのケアはもちろん、定期的に歯科で口の中のチェックを!

今すぐお口の状態をチェック!

- 歯肉の色が赤い、もしくはどす黒い
- 歯みがき時などに歯肉から出血しやすい
- 起床時に口が苦く、ネバネバして気持ち悪い
- 歯と歯の間の歯肉が丸く、腫れぼったい
- 歯と歯の間に食べ物が挟まりやすい

1 つでも当てはまったら歯周病の恐れが・・・

歯周病を予防しよう!



家庭での歯のケア
歯ブラシの他、糸ようじや歯間ブラシなどで歯と歯の間もキレイに

定期的に歯科検診を

歯科医師や歯科衛生士による口の中のチェックや家庭での歯のケアの指導を受けましょう



40 歳以上の節目年齢の人へ

下表の対象者には、歯周疾患検診の受診券付はがきを 4 月下旬に郵送しています。

受診期限 10月31日(月)

令和4年度歯周疾患検診対象者

年齢	生年月日
40歳	昭和57年4月1日～昭和58年3月31日
50歳	昭和47年4月1日～昭和48年3月31日
55歳	昭和42年4月1日～昭和43年3月31日
60歳	昭和37年4月1日～昭和38年3月31日
65歳	昭和32年4月1日～昭和33年3月31日
70歳	昭和27年4月1日～昭和28年3月31日

妊娠中の人へ

「母子保健のしおり」の「妊婦歯科健診受診券」で、歯科健診を受診しましょう。

持ち物 母子健康手帳、妊婦歯科健診受診券

家の裏に倒木の危険性がある木が・・・

危険木の伐採費用の一部を補助します



☎ 農林資源室 ☎ 63 - 7625

人家裏に倒木の恐れのある木の所有者が事業者などに委託して行う危険木伐採にかかる経費の一部を補助します。

◎上限額や申請方法など詳しくは問合せ先へ

※個人の申請に限ります。



「みえ森と緑の県民税」を活用しています

県は、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、「みえ森と緑の県民税」を交付しています。上記の事業など、さまざまな事業に有効活用しています。

■ 森林公園など環境活用整備事業

地域の皆さんによる森林公園の整備や維持管理をする事業の経費を補助

■ 未利用間伐材バイオマス利用促進事業

未利用間伐材をバイオマス燃料として搬出する際の作業費や運搬費を補助

苗植えから収穫まで親子で体験しませんか?

「さつまいもづくり」参加者募集

☎ 農林資源室 ☎ 63 - 7625

日時 5月29日(日) 午前9時現地集合

※ 7月下旬～8月上旬に除草作業予定

9月下旬～10月上旬収穫予定

場所 みはたメイハンランド内
名張市めばえファーム(新田)

対象 市内在住の子どもと保護者の方で苗植え、除草、収穫作業に参加できる人

定員 50 家族 ※先着順

参加費 1 家族 1,000 円



申込 5月23日(日) (必着) までにはがき(〒518 - 0492 鴻之台 1 - 1 ※ 1 組 1 枚まで)、ファクス(64 - 0644)、メール(nourin@city.nabari.mie.jp)のいずれかで、「親子体験農業参加申込」と書いて、住所、参加者全員の氏名、年齢、電話番号を記入し、問合せ先へ

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業					
事業費	4,708,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,177,000	0	3,531,000	

1. 事業の目的	
電力会社等と市町及び県が連携して、台風等における倒木被害からライフラインを守るため、危険木と想定される立木等の事前伐採を行い、安心安全な市民生活を確保する。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】	
各地区の要望等を把握し、電力会社等及び三重県と連携して、台風などの倒木被害によりライフラインを寸断する恐れのある危険木の事前 (計画) 伐採を実施した。	
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】	
名張市	
【実施箇所及び箇所数】	
1箇所 (名張市 夏見 地内)	
【事業量】	
夏見 : 0.5ha、517本伐採	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】	
電力会社と行政が連携して事前伐採を行うことにより、倒木被害の予防・低減に貢献することで地域住民の安全・安心な生活を確保することができる。	
【効果を発揮させるための工夫・取組】	
特になし	
【新たな対策・視点及び改善点】	
大規模な整備を行う場合、森林所有者調査において市町の負担が大きく、ひとりでも承諾を得られない場合は、事業実施が困難になる場合が想定される。今後はライフラインを寸断する可能性のある立木を小規模の範囲で危険度に応じ、伐採していくことが必要である。	

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業					
事業費	4,708,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,177,000	0	3,531,000	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	林業事業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

入札（1者）

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	森林所有者、電力の供給領域で生活する市民・県民
期待する波及効果	道路を通る住民への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

住民の生命に関わるライフラインの保全のために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	実施箇所
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業
-----	---------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採		式	1.00	4,708,000	4,708,000	名張市 夏見 地内 伐採本数517本
			合計		4,708,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業
-----	---------------------

7の(1). 写真



写真1

夏見地内(施工前)



写真2

夏見地内(施工後)



写真3

夏見地内(施工前)



写真4

夏見地内(施工後)



写真5

夏見地内(作業写真)



写真6

夏見地内(作業写真)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
5	森林環境教育推進事業					
事業費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			100,000	0	0	

1. 事業の目的	
全国的に森林環境教育の重要性が高まる中で、初等教育の過程において森林・自然への理解や関心を高めるため、小学校と地域づくり組織が共同で森林教育を行う。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】	
小学生を対象に自然環境の大切さと里山の役割、またその保全の取り組みに理解を深めることを目的として、東山ふれあいの森において、自然環境等に関するクイズラリーをしながら散策し、学習の場とした。	
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】	
市内地域づくり組織 (桔梗が丘自治連合協議会)	
【実施個所及び箇所数】	
1校 (桔梗が丘東小学校)	
【事業量】	
1校 補助事業費：100,000円	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】	
森林環境教育を受けた子ども達が、森林・自然への理解と関心を深めることができる。活動経費の補助により森林環境教育を実施する機会が増加する。	
また、本事業を実施するにあたりボランティアスタッフも森林・自然への理解と関心を深める機会となり、地域づくり組織が率先して地域の小学生と交流する場となる。	
【効果を発揮させるための工夫・取組】	
地域住民への波及効果を期待しボランティアスタッフの動員数を増やした	
【新たな対策・視点及び改善点】	
森林教育を通して、小学生、保護者が地域づくり組織と交流する場が確保されることは、地域にとって有意義な活動であるとともに、初等教育において里山等への関心を深める活動は貴重な経験となる。クイズラリーに関しては、毎年異なった問題が出題されており、地域づくり組織の工夫も感じられる。また、記念品として、参加した小学生にクリアファイル贈呈を行ったり、事業完了後、事業内容や参加した小学生の感想等をまとめた冊子の制作も行っている。これらのことから、今後も継続して実施する必要がある。	

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
5	森林環境教育推進事業					
事業費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			100,000	0	0	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 100,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	桔梗が丘東小学校児童約63名、教員及びボランティアスタッフ約70名
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

森林環境教育を充実させるために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施前・中・後	実施箇所（森林公園内）
のぼり設置	実施中	実施箇所（森林公園内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場
啓発物品配布	実施中	クリアファイル
アンケート実施	実施後	小学生を対象に感想をとりまとめて冊子を製作

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
桔梗が丘自治連合協議会	消耗品費	式	1.00	16,000	16,000	クリアファイル
桔梗が丘自治連合協議会	バス賃借料	式	1.00	84,000	84,000	2台
				合計	100,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1
フィールドワーク出発前 (10/31)



写真2
フィールドワーク出発前挨拶 (10/31)



写真3
本部での普及活動 (10/31)



写真4
クイズラリーの一例 (10/31)



写真5
記念品(クリアファイル) ※横向き

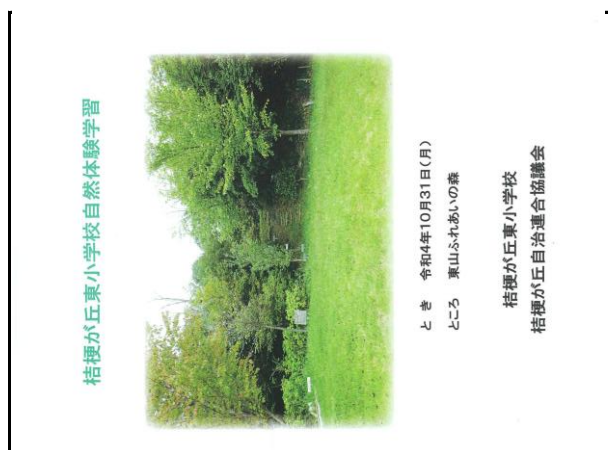


写真6
成果品(冊子) ※横向き

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	リニューアル
番号	事業名				
6	県産材に親しむことができる木育推進事業				
事業費	3,855,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,172,350	683,150	0

1. 事業の目的

近年子どもの運動能力の低下が問題視される中で、県産材で作られた木製遊具を組み合わせ方法を工夫しながら園庭等に設置することにより、乳幼児期からの運動能力の向上に寄与すると共に、木の形状、匂い、質感など五感を刺激する遊びにつなげる。また、これらの体験と森づくりサポーターから話を聞くことで「木育」を進め、積極的に森林や木々に関わることができる学びの場を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

公立保育所 (赤目保育所) に三重県産材を活用したフェンス、プランター、テーブル、ベンチを設置し、老朽化していた木製小屋の改修を行った。また、令和4年12月5日に三重県緑化推進協議会、国土緑化推進機構が主催する「森の教室」を同保育所で開催することで、4~5歳児36人が森の大切さや働き等を学習する機会となった。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

名張市

【実施箇所及び箇所数】

1箇所 (赤目保育所)

【事業量】

赤目保育所：木製遊具の設置、木製小屋の改修等 3,855,500円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

効果は次の通り。

- ・県産材に触れ親しむ。
- ・身近な木々がさまざまな物に活用できることを知る。
- ・既製品にない形状、香り、肌触りなど五感で感じ記憶する。
- ・安らぎ感あふれる空間形成。
- ・県産材を利用していることの意味を知った子どもたちが、保護者等周りの大人たちに話し伝える効果。
- ・森の先生に講義を依頼することでより森林や木々への理解を深める。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

公立保育所の園庭に木製施設を設置することで、より密接に自然や緑と接する環境を創出した。また、市内でもっとも児童数が多く、より多くの児童が事業による恩恵を受けられる1施設を選定した。

【新たな対策・視点及び改善点】

みえ森と緑の県民税事業に緑化推進事業である「森の教室」を組み合わせることで、各事業のPRを効果的に行うことができた。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	リニューアル
番号	事業名				
6	県産材に親しむことができる木育推進事業				
事業費	3,855,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,172,350	683,150	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	建設業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

一般競争入札

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	設置した木製遊具を活用する児童 約90名
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

施設管理者として公的に取り組む必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設管理者が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市
------	-------------------	-----	-----

事業名	県産材に親しむことができる木育推進事業
-----	---------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託料	木製小屋等改修工事	式	1.00	3,855,500	3,855,500	木製フェンス等の設置、木製小屋の改修
			合計		3,855,500	

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	県産材に親しむことができる木育推進事業
-----	---------------------

7の(1). 写真

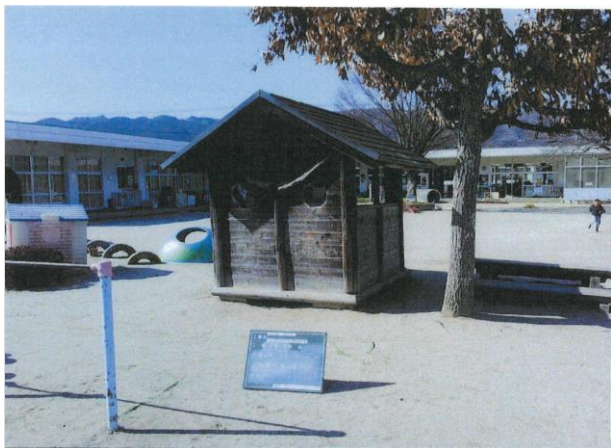


写真1

木製小屋の改修 (着工前)

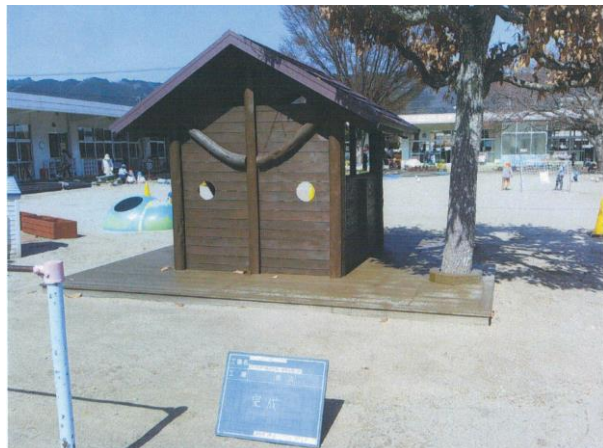


写真2

木製小屋の改修 (着工後)



写真3

木製フェンスの設置 (着工前)



写真4

木製フェンスの設置 (着工後)

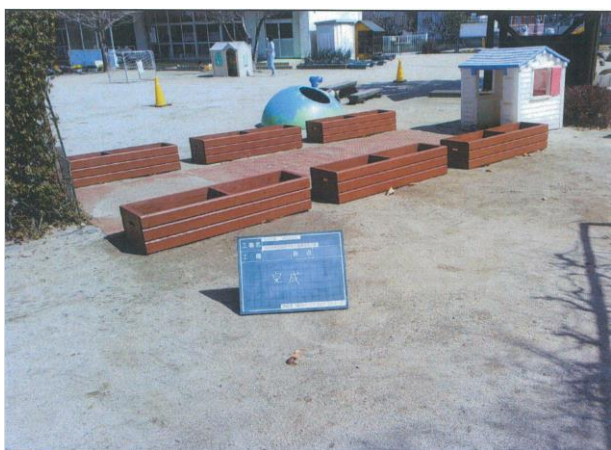


写真5

木製プランターの設置 (着工後)



写真6

木製ベンチ・テーブルの設置 (着工後)

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	県産材に親しむことができる木育推進事業
-----	---------------------

7の(2). その他資料

三重県緑化推進協議会リーフレット



緑の募金にご協力をお願いします

緑豊かな住みよい環境づくりを目指して
森林・緑づくりの県民運動を展開しています。

森林・緑地はかけがえのない環境資源であり、あらゆる生物の生存に不可欠な「緑と水」のふるさとです。森林・緑地を守り育て次代に引き継ぎ、緑の循環型社会の構築をめざすことは、私ども地球市民一人ひとりの課題であり責務ではないでしょうか。

21世紀は「森林の世紀」といわれています。これを機に緑化運動を一層充実し環境にやさしい緑化への取り組みを強化して参りたいと考えております。

皆様からのご協力を心よりお願いいたします。



身近な森を育て守るために、
子どもたちと一緒に「森の教室」を開催します!

森の教室 IN 名張市立赤目保育所

どんぐりくんと森の仲間たち

2022年12月5日
月曜日
10:00~11:30

みんなでたのしく、
もりのことを
おべんぎょう
してみようよ!

全国で37都道府県・29,731名以上の園児が参加してくれています。(2022年6月末)

公益社団法人 三重県緑化推進協会
TEL 059-224-9100 FAX 059-224-9118
ホームページ <http://www.ztv.ne.jp/web/miryokusui/>

ファミリーマートは店頭募金「夢の掛け橋募金」を通じて「森の教室」を応援しています。

ファミリーマートは将来世代を応援しています!

ファミリーマートの店舗でお預かりした「夢の掛け橋募金」は、子どもたちと地域の未来のための活動に活かされています。ファミリーマートは、国土緑化推進機構が「緑の募金」を活用して主催する「森の教室」を支援し、森林のふからし、自然の大切さを将来世代に伝える活動を応援しています。

主催 公益社団法人 三重県緑化推進協会
公益社団法人 国土緑化推進機構

特別協力 ファミリーマート
株式会社ファミリーマート
ファミリーマートは店頭募金「夢の掛け橋募金」を通じて「森の教室」を応援しています

協力 名張市

みんなにあえることをたのしみにしてるよ!

三重県緑化推進協議会リーフレット

当日プログラム

森の楽しさを伝え、学ぶ
「森づくりのキャラクターショー」

森づくりくん「どんぐりくん」と「ふあみたん」と一緒に「森の授業」を行います。大きな絵本を使って、子どもたちと一緒に森について考えます。

「どんぐりくん」と「ふあみたん」と一緒にオリジナル「森の体操」を行います。

園児たちが「どんぐりくん」と「ふあみたん」と一緒に「森の授業」を行います。身体を大きく動かして、リズムに合わせて踊ります。時間は3分程度。

園児とキャラバン隊で行う「どんぐり書き」

「どんぐり」をキャラバン隊と一緒に、園児のスペースに書いていきます。書き終わった後は、園児たちと一緒に「どんぐり」の絵を描いていきます。書き終わった後は、園児たちと一緒に「どんぐり」の絵を描いていきます。

三重県緑化推進協議会HP

公益社団法人 三重県緑化推進協会

三重県緑化推進協議会へようこそ!

公益社団法人三重県緑化推進協議会は、緑の募金に基づき「緑の募金」を行う県内唯一の団体で、地球温暖化防止をはじめとした森林の価値への理解を深めるほか、「緑の募金」の取組として「緑の募金」を住みよい環境づくりを目的として森林・緑づくりの県民運動を展開しています。

最新ニュース

令和4年12月6日ホームページを更新しました。

「森の教室 IN 三重県」
令和4年12月5日、国土緑化推進機構が株式会社ファミリーマートの店頭募金「夢の掛け橋募金」を活用して開催している全国巡回型「森の教室」が、名張市立赤目保育所で開催されました。

三重県内では令和2年の開催時から2年間は新型コロナウイルスの影響を防ぐためオンライン形式での開催でしたが、今回はオンライン形式による初めての開催となりました。

森のお姉さんや着ぐるみのどんぐりくんやふあみたんと一緒に、森のクイズやダンスを楽しんでいただきました。

子どもたちは大きな声で答えたり、元気に飛びまわったり、楽しみながら森の働きや森のいきものなどを勉強しました。

その後、外に出てどんぐりの植え方などを教えてもらったあと、準備したプランターに一人ずつどんぐり書きをしました。

お問い合わせ
協会へのお問合せはこちらへ
公益社団法人 三重県緑化推進協会
〒514-0003
三重県津市桜井1丁目104番地
TEL 059-224-9100
FAX 059-224-9118
035950

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
7	学校林整備事業				
事業費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000	0	0

1. 事業の目的

これまで放置され、荒廃が進んでいる学校林を整備することにより、小学生が学校生活において森林に親しむ豊かな環境を再生し、森林や緑に対する理解を深める場として活用する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

事業内容は次の通り。

① 薦原小学校林：薦原小学校林において、子どもたちが学習しやすくするため、遊歩道及び散策路等の整備を行った。また、充実した活動を行えるよう学校林内にある木材を活用した遊具を増設した。3月には、森林環境学習等を実施し、木の育の推進を行った。

② ずらん台小学校林：「学習の森（小学校内学校林）」において、子どもたちがより安全に活動できるように学校林内にある散策路コースの整備、倒木の整理及び搬出、腐食した木製ステージの解体等を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内地域づくり組織（薦原地域づくり委員会、地縁法人ずらん台町づくり協議会）

【実施箇所及び箇所数】

市内2箇所

【事業量】

薦原小学校林：遊歩道及び散策路等の整備、遊具の増設

学校林面積 1,334㎡ 400,000円

ずらん台小学校林：散策路コースの整備、倒木の整理及び搬出、腐食した木製ステージの解体等

学校林面積 約1ha 500,000円

計900,000円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

子ども達が学校生活において森林に親しむことができる環境を整備することで、森林や緑に対する理解を深める機会を創出できる。また、PTAや地域住民の利活用も期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

学校林の整備と併せて、森林教育活動を実施することで、より効果的な取組とした。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林に触れる経験は児童にとって重要かつ有意義なものであり、児童が安心して学習できる学校林を維持するために今後も継続して実施する必要がある。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
7	学校林整備事業				
事業費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 500,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	学校林を活用する児童 約350名、教員及びPTA、ボランティアスタッフ 約200名
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

森林環境教育の充実及び学校林を活用する児童の安全を確保するために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校と学校林整備を行う団体が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施前・中・後	整備箇所（学校林内）
のぼり設置	実施中	整備箇所（学校林内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市
------	-------------------	-----	-----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
薦原小学校林	山林整備工事	式	1.00	303,000	303,000	
	用具購入費	式	1.00	86,500	86,500	
	森林環境教育講師謝礼	式	1.00	10,500	10,500	
すずらん台小学校林	森林保全作業費	式	1.00	500,000	500,000	
合計					900,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

7の(1). 写真



写真1

薦原小学校林



写真2

薦原小学校林

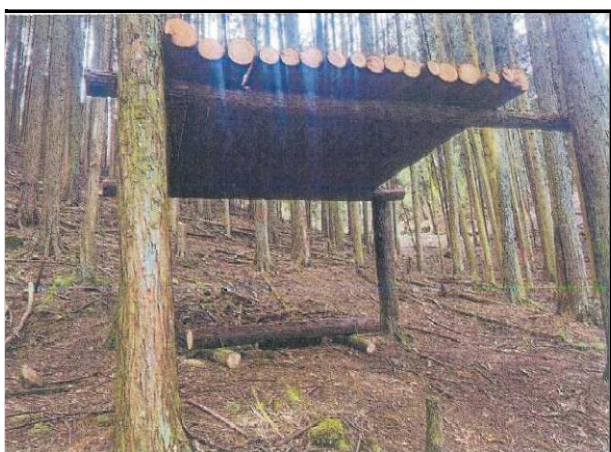


写真3

薦原小学校林



写真4

すずらん台小学校林



写真5

すずらん台小学校林



写真6

すずらん台小学校林

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
8	森林公園等環境活用整備事業				
事業費	840,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			840,000	0	0

1. 事業の目的

市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

事業内容は次の通り。

- ①東山ふれあいの森：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、遊歩道付近における立木の剪定、除去、除草作業を行った。
- ②桔梗が丘地内の森林公園：森林環境教育や地域のイベントなどに利用できるよう、地域内の自然公園において、枯れ木の伐倒処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業、植樹を行い、保全管理作業を行った。
- ③箕曲地内の森林：箕曲地内の森林（箕曲小学校付近）を森林公園として利用できるよう、遊歩道の整備、古木の管理、地域住民参加で植樹を行った。また、憩いの場作りのためのベンチを設置した。
- ④西田原ふるさと公園：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、休憩所の整備を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内地域づくり組織（ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会、箕曲地域づくり委員会、薦原地域づくり委員会）

【実施箇所及び箇所数】

市内4箇所

【事業量】

東山ふれあいの森 遊歩道付近における立木の剪定、除去、除草作業（延べ作業人数20名）
 桔梗が丘地内の森林公園 枯れ木の伐倒処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業、植樹（13名のスタッフにて年間20回の保全活動）
 箕曲地内の森林 遊歩道の整備、古木の管理、地域住民参加で植樹（延べ作業人数34名）
 西田原ふるさと公園 休憩所の整備（延べ作業人数15名）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林公園の整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、森林への理解、関心、愛着や親しみが生まれ、それによって優しく森林公園を利用し、市民が心豊かな生活が送れることができる環境が整備される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

住民が自ら事業を実施することで森林が身近に感じられるよう工夫した。

【新たな対策・視点及び改善点】

市民が利用しやすいように市内の森林公園の大半が当事業によって整備され、また利用する市民も多いため今後も継続して実施する必要がある。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
8	森林公園等環境活用整備事業				
事業費	840,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			840,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	上限300,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった地区を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	地域住民及び公園利用者並びにボランティア参加者 約18,000人
期待する波及効果	地域住民からの波及効果が期待される

【公的関与の必要性】

森林公園は地域協議会等が管理しているが、管理費用等は協議会負担であり、整備を充実させるためには公的関与が必要となる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

購入した備品は公園管理にのみ使用し、地域協議会等が適切に管理する

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施箇所
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
ひなち地域ゆめづくり委員会	立木の剪定、除去、除草作業	式	1.00	100,000	100,000	チップソー、鎌、ノコギリ等購入
桔梗が丘自治連合協議会	枯れ木の伐倒処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業、植樹	式	1.00	240,000	240,000	チェーンソー部品、ベンチグラインダー、ヤスリ等購入
箕曲地域づくり委員会	遊歩道の整備、古木の管理、地域住民参加で植樹	式	1.00	200,000	200,000	苗木、草刈機、除草剤等購入
薦原地域づくり委員会	休憩所の整備	式	1.00	300,000	300,000	木材 (スギ板) 等購入
合計					840,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

7の(1). 写真



写真1

東山ふれあいの森（ひなち地域ゆめづくり委員会）



写真2

桔梗が丘地内の森林公園（桔梗が丘自治連合協議会）



写真3

桔梗が丘地内の森林公園（桔梗が丘自治連合協議会）



写真4

箕曲地内の森林（箕曲地域づくり委員会）

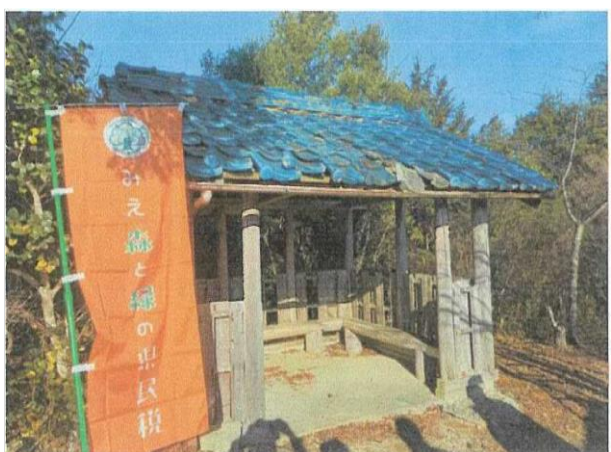


写真5

西田原ふるさと公園（薦原地域づくり委員会）※施工前



写真6

西田原ふるさと公園（薦原地域づくり委員会）※施工後

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
9	桜並木保全管理事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

1. 事業の目的

毎年多くの市民が参加する「名張桜まつり」の会場である名張中央公園の桜並木の樹勢が衰え、開花状況が悪くなっている。

そこで、名張中央公園の桜並木に地域住民らがボランティアとして、専門家（樹木医）の意見を参考に施肥することにより、住民の森林や緑を思う気持ちの醸成を図り、身近な緑に親しめる環境を整備する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

名張桜まつり実行協議会主体のもと、名張中央公園内道路の歩道に植樹された桜約800本の内、特に被害が出ている樹について、周辺への堆肥の散布、表面のカビ・コケ類の除去、枯れ木の除去等のメンテナンスを実施した。また、新たに1本の植樹を行った。2/4には「桜満開プロジェクト」として、実施主体の協議会運営委員とともに地域ボランティアも参加し、作業を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張中央公園で桜並木の保全管理を実施する団体（名張桜まつり実行協議会）

【実施個所及び箇所数】

1箇所（名張中央公園内）

【事業量】

保全活動 300,000円

内 堆肥 264,000円（約800本のうちメンテナンスが必要な樹木対象）

植樹 36,000円 1本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

桜並木の保全管理を通して、森林を思う気持ちの醸成や樹木も適切に管理しなければ枯れてしまうこと、身近な森林に親しむためには手入れが必要であることが実感できる機会を創出する。さらに、森の働きや森林の手入れの重要性等について講義を行うことで森林への理解をより深めることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

「桜満開プロジェクト」において、地域住民への呼びかけを行うことで、桜並木を思う気持ちの醸成を図った。

【新たな対策・視点及び改善点】

より多くの住民に県民税の周知を図るには、多くの住民が来場する「名張桜まつり」での県民税のPRを行うことが重要であり、次年度は関係団体と調整し、PRを行う。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
9	桜並木保全管理事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	定額補助	1件当たり 300,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	「桜満開プロジェクト」及び「名張桜まつり」の参加者 30,000人（見込み）
期待する波及効果	「名張桜まつり」の参加者への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

桜並木の保全及び市民の森林を思う気持ちの醸成ために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施前・中・後	実施箇所（名張中央公園内）
のぼり設置	実施中	実施箇所（名張中央公園内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	堆肥代	式	1.00	264,000	264,000	
補助金	植樹	式	1.00	36,000	36,000	
			合計		300,000	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

7 の (1) . 写真



写真1

名張中央公園内



写真2

名張中央公園内



写真3

名張中央公園内



写真4

名張中央公園内



写真5

名張中央公園内



写真6

名張中央公園内

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
10	無形民俗文化財保全事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

1. 事業の目的
<p>770年以上続く、「伊賀一ノ井松明調進行事」に用いられる松明木の原料を調達するヒノキ林を育成することで、「無形民俗文化財」に指定される当行事を継承していく。また、ヒノキの植樹を地域住民によるボランティアとして行うことで、地域の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、身近な自然に親しめる環境を整備する。</p>
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>「伊賀一ノ井松明調進行事」を地域の小学生に周知するため、10/25に事前学習会を実施し、11/25には、松明木の原料となるヒノキ材を調達する森林を整備するため、地域の小学生参加による植樹を実施した。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>伊賀一ノ井松明調進行事を実施する団体 (伊賀一ノ井松明講)</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>1地区 (名張市赤目町一ノ井)</p> <p>【事業量】</p> <p>1地区 (名張市赤目町一ノ井) 300,000円 森林面積：約 0.2ha 植樹：約100本</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>地元で古くから引き継がれる伝統行事に欠かせないヒノキ林の整備を行うことで、身近な森林を大切にしている気持ちを醸成することができる。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>植樹祭及び松明調進行事で森林の保全管理の必要性について説明を行った。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>地域の小学生の参加により、地元で根差した伝統行事の存在を周知するとともに、各種報道機関も巻き込み、「伊賀一ノ井松明調進行事」をPRできた。</p>

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
10	無形民俗文化財保全事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	定額補助	1件当たり 300,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	伊賀一ノ井松明講、春を呼ぶ会 等関係団体 約30名 地元住民（小学生）による植樹への参加者 42名
期待する波及効果	「伊賀一ノ井松明調進行事」の参加者への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

無形民俗文化財の保全及び継承のために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施後	各種報道機関（読売新聞等合計5社）による新聞掲載
のぼり設置	実施中	実施箇所（名張市赤目町一ノ井内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

事業名	無形民俗文化財保全事業
-----	-------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	山林植林整備費	式	1.00	242,000	242,000	約100本植樹
補助金	植林用備品購入費	式	1.00	58,000	58,000	下刈り鎌、砥石、造林肥料
			合計		300,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	無形民俗文化財保全事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

赤目町一ノ井地内 (10/25事前学習会)



写真2

赤目町一ノ井地内 (11/25植樹)



写真3

赤目町一ノ井地内 (11/25植樹)



写真4

赤目町一ノ井地内 (11/25植樹)



写真5

赤目町一ノ井地内 (11/25植樹)



写真6

小学生より一ノ井松明講の方へ宛てた感想文表紙 ※横向き

伊賀市

令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（平成30年度版三重県市町要覧による）

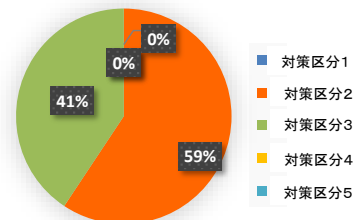
市町名	伊賀市	三重県
人口（人）	86,306	1,782,190
年少人口割合（%）*1	11.2%	12.4%
森林面積（ha）	33,952.00	372,352.55
民有林面積（ha）*2	32,599.00	348,833.49
森林率（%）	61.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）*3	12.1	10.1

*1：全人口に占める15歳未満の人の割合

*2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

*3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額+基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	みんなの里山整備活動推進事業	6,052,000	6,052,000		6,052,000				
2	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	2,803,680	2,803,680		2,803,680				
3	3	木づかい木育推進事業	2,447,287	2,447,287			2,447,287			
4	3	伊賀の森っこ育成推進事業	2,845,392	2,845,392			2,845,392			
5	3	地域の森と緑のつながり支援事業	80,000	80,000			80,000			
6	3	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）	700,000	700,000			700,000			
7	-	みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	8,097,641	8,097,641						8,097,641
				0						
計			23,026,000	23,026,000	0	8,855,680	6,072,679	0	0	8,097,641

3. 令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業	269箇所、118.7ha	37,268,000	37,268,000	現地調査及び間伐実施
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

<p>事業方針</p> <p>当市の森林面積率は、61%であり、周囲が森林に囲まれた立地にある。そのような背景を踏まえ、災害に強い森林づくりと住民全体で森林を支える仕組みづくりの両立を図ることが必要であることから、暮らしに身近な森林を住民自らの手で整備する事業を推進しているとともに、木育を始めとして森林や緑を大切に思う人づくりに繋がる教育活動を支援する事業を推進している。</p>
<p>事業実施により期待される効果</p> <p>みんなの里山整備活動推進事業では、事業を通して地域の山林として位置づけることで、維持管理する方向性が地区等で広がっている。未利用間伐材バイオマス利用推進事業においても、災害に強い森林づくりのみならず、森林所有者が間伐作業へ携わる機会の増大に貢献している。木育関連事業で実施したアンケートでは、木のぬくもりの良さについて回答する意見も見受けられ、森林の持つ重要性についての周知が進んでいる。</p>
<p>情報発信への取組</p> <p>みえ森と緑の県民税の認知度をより高めるため、市内で放映されるCATV（伊賀上野ケーブルテレビ）を活用して、みえ森と緑の県民税の目的や必要性を周知した。伊賀市では、木育から森林整備まで幅広く事業展開している市町交付金事業の全事業について紹介し、中でも、「森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）」の紹介では、生徒がプレゼンテーションしている様子の写真や完成品の写真、配置箇所等を説明し、県民税を身近に感じられる内容で周知した。また、昨年度に続き今年度も新型コロナウイルス感染症対策の観点から、市内の農産物等イベントへの木育ブース出展による情報発信活動は中止となったが、みえ森と緑の県民税に関するアンケート等を実施したほか、伊賀市役所庁舎内にて、木使いの重要性を伝えるパネル展示、みえ森と緑の県民税に関するパネル展示を三重県伊賀農林事務所と共同で実施し、森林の重要性とともに県民税の周知に努めた。</p>

第 1 1 号様式 (その 1) (参考資料)

年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	3,300	3,300
2	③ 私有林整備	4,180	4,180
3	③ 私有林整備	44,537	44,537
4	⑪ 新たな組織の設立	2,694	2,694
5	⑦ その他 (森林整備)	11,513	11,513
6	⑦ その他 (森林整備)	928	928
7	⑦ その他 (森林整備)	1,490	1,490
8	⑬ 木造公共建築物の整備等	3,818	3,818
9	⑬ 木造公共建築物の整備等	368	368
10	⑬ 木造公共建築物の整備等	40	40
11	⑰ 基金積立 (森林整備等)	82	82
	合計	72,868	72,868

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	みんなの里山整備活動推進事業					
事業費	6,052,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			6,052,000円	0	0	

1. 事業の目的						
<p>地域住民の主体的な参加のもと、地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林を再生するために自治会等が行う活動に対して支援することにより、身近な里山環境を豊かにすること及び地域住民による持続的な森を支える社会づくりの形成を目的とする。</p>						
2. 事業実績概要						
<p>【事業内容】 緑の環境づくりや生活に密着した里山の再生、荒廃竹林や危険木伐採を行う自治会等の地域ボランティア活動に対して、その活動に必要な費用を補助金 (上限250,000円/団体) として交付する。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】 地域住民が組織する自治会等の団体</p> <p>【実施個所及び箇所数】 27箇所</p> <p>【事業量】 支援地域団体数：27団体 整備面積：41.1ha</p>						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>既存の森林整備事業では整備が難しい暮らしに身近な里山等の整備を、地域住民の作業によって実施できる。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】 地域住民のボランティアによる地域の里山・竹林・緑地の管理及びこれらの関連施設の管理を年間2回以上行うことを事業要件としていること。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】 当事業の趣旨は、地域住民が当事業に積極的に参加することであることを再度周知徹底し、より良い制度運用を行なっていただく。</p>						

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	みんなの里山整備活動推進事業					
事業費	6,052,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			6,052,000円	0	0	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	定額補助	25万円/団体	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
補助金交付申請により、事業目的に沿ったものであるか判断した。				
【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	受益者：市内住民 活動団体数：27団体 活動参加人数：延べ965人			
期待する波及効果	地域の人々が身近な森林の整備を行うことで、幅広い人に森林への興味関心を育むことが出来る。			
【公的関与の必要性】				
地域の里山等として整備するため、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
地域共有の場としての里山等を事業対象としているため、転用等は想定されない。 持続管理する必要性について指導している。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	実施前・中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。		
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。		
パネル展示	実施後	市民が行き交う場所に設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置し		
チラシ配布	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。		
のぼり設置	実施中	必要に応じて、事業箇所に県民税のぼりを設置し、周辺住民へのPRを図っ		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声が多かった。				

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
事業名	みんなの里山整備活動推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業補助金	団体	27	上限250,000円	6,052,000	
事業費				6,052,000	

作業内容	名称	人数	整備面積	活動内容	補助金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業 一覧	北山区	22	0.30	草刈り、危険木除去	250,000	
	中矢区	76	2.40	草刈り、危険木除去	250,000	
	坂下区	46	1.20	荒廃防止のための整備	242,000	
	法花区	81	0.70	登山道整備、池周辺草刈	250,000	
	柏尾区	20	0.05	危険木の除去	155,000	
	西山自治会	77	0.50	支障木除去	250,000	
	大江区	35	20.00	危険木の除去	250,000	
	鍛冶屋自治会	29	0.05	危険木の除去	209,000	
	妙楽地区	90	-	支障木除去	249,000	
	阿山ハイツ自治会	18	0.01	支障木除去	250,000	
	諸木区	20	0.40	支障木除去	211,000	
	霧生区	49	2.40	草刈り、危険木除去	250,000	
	種生区	12	0.35	支障木除去	250,000	
	広瀬区	15	2.00	支障木除去	250,000	
	伊勢路区	20	0.10	支障木除去	235,000	
	四十九町自治会	5	0.01	支障木除去	250,000	
	小杉区	90	0.60	支障木除去	92,000	
	中友田区	22	0.15	支障木除去	248,000	
	瀧区	12	0.20	危険木の除去	225,000	
	上津地区住民自治協議会	22	0.03	危険木の除去	250,000	
	ハイツ芭蕉区	9	1.50	支障木・危険木除去、草刈	234,000	
	勝地区	20	0.00	危険木の除去	250,000	
	猪田大東区	22	0.50	山道の保全	55,000	
	東高倉区	34	5.50	山道の保全	166,000	
	大内区	14	1.00	危険木の除去	246,000	
	音羽区	25	0.70	危険木の除去	250,000	
	御代区	80	0.40	竹林の伐採	235,000	
	計	965	41.05		6,052,000	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

7 の (1) . 写真



写真1

竹林の整備



写真2

草刈り



写真3

伐採樹木の搬出



写真4

伐採竹の粉碎



写真5

森林整備



写真6

枝払い整備

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	
-----	--

7の(2). その他資料

city.iga.jp/0000006648.html

今後、Google Chrome のアップデートを受信するには、Windows 10 以降が必要となります。このパソコンでは Windows 8.1 が実行されています。

伊賀市 Iga City

Google 検索

文字サイズ 標準 拡大 読み上げ 読み上げ設定 やさしいほんご

トップ 防災・暮らし 健康・福祉 教育・文化 スポーツ 観光情報 市政情報

現在位置 トップ > 市政情報 > 市の計画・取り組み > 各種施策

あしあと

地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業

[公開日: 2023年5月1日] [更新日: 2023年5月1日] ID:6648 ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

地域主体の暮らしに身近な森林づくりや森を育む人づくりを応援します。伊賀市では「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」として、主に住民自治協議会、自治会(区)を対象に以下の事業の募集を行っています。

令和5年度 みんなの里山整備活動推進事業補助金

- 実施主体
自治会(区)等
- 実施期間
交付決定日から令和6年2月末日
- 事業内容
自治会(区)等の地域住民のボランティアによる地域の里山・竹林・緑地の管理およびこれらの関連施設の管理を2回以上行う活動
- 事業目的
暮らしに身近な里山を地域住民みんなの里山として管理し、次世代に受継ぎ、持続的な里山の保全管理を推進する。

※詳しくはみんなの里山整備活動事業推進事業補助金の概要をご確認ください。事業の実施には、各要件がありますので、事前に農林振興課計画係までお問い合わせください。

添付ファイル

- 令和5年度 みんなの里山整備活動推進事業概要 (PDF形式、651.33KB)
- 様式集 (ワード形式、28.78KB)
- 様式集【記入例】 (PDF形式、526.60KB)

お問い合わせ

伊賀市役所産業振興部農林振興課
電話: 0595-22-9712
ファックス: 0595-22-9715
電話番号のかけ間違いにご注意ください!

お問い合わせフォーム

この記事と同じ分類の記事

- 令和5年度市政運営会議
- 令和4年度市政運営会議
- 伊賀市産業振興条例が公布・施行されました
- 令和3年度市政運営会議
- 令和2年度市政運営会議
- 伊賀市と甲賀市は生活行動圏を共有しています
- 平成31年度市政運営会議
- 平成30年度市政運営会議
- 平成29年度市政運営会議

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業					
事業費	2,803,680 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			2,803,680円	0	0	

1. 事業の目的						
<p>森林所有者等による未利用間伐材の搬出を推進することにより、木質バイオマス資源の有効活用を図ると共に、森林所有者等の意識啓発や暮らしに身近な森林における林地残材の減少を図り森林整備の促進につなげる。</p>						
2. 事業実績概要						
【事業内容】						
<p>発電用チップに用いる間伐材等由来の木質バイオマス証明材を、市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者に買い取ってもらうために必要な搬出及び運搬に要する経費の一部を助成する。</p>						
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】						
補助事業；森林所有者等						
【実施個所及び箇所数】						
補助申請毎の伐採届による間伐箇所と連動する。						
【事業量】						
補助事業：未利用間伐材搬出 934.56 t (前年：1,829t) 搬出件数 延べ19件 2,803,680円						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
【事業実施により期待される効果】						
<p>土砂災害等の被害拡大につながる林地残材を減らすことにより、くらしの安心・安全を守る災害に強い森林づくりに寄与したほか、森林所有者等に森林整備の必要性を身近に感じてもらうことにより、森林への意識が高まった。</p>						
【効果を発揮させるための工夫・取組】						
<p>令和3年度に、当事業を利用している森林所有者の要望を受け、林地残材の搬出に係る実態調査を行い検討した結果、補助単価を2,500円/tから3,000円/tに増額した。</p>						
【新たな対策・視点及び改善点】						
<p>事業を活用しやすいように、申請書及び添付資料の簡略化を検討する。</p>						

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業					
事業費	2,803,680 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			2,803,680円	0	0	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	登録者	定額補助	3,000円/t	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
該当無し				
【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	森林所有者等			
期待する波及効果	森林の整備が進むことにより、森林の持つ公益的機能の向上の恩恵を受けることができる			
【公的関与の必要性】				
市内の森林整備を進めていくため、公的支援（経費補助）による間伐材搬出作業の推進が必要。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
森林が適正に管理されるよう指導している。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	実施前・中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。		
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。		
パネル展示	実施後	市民が行き交う場所に設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置し		
チラシ配布	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
森林所有者がバイオマス材として搬出することに欠かせない補助金であるとの声をいただいている。				

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7 の (1) . 写真



写真1

間伐材搬出の様子



写真2

間伐された森林の様子



写真3

間伐材搬出の様子

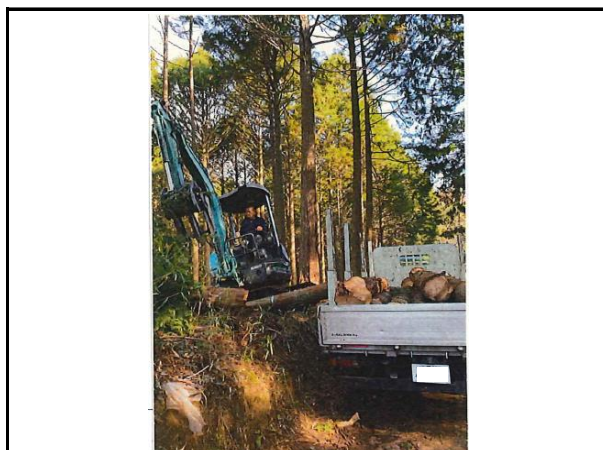


写真4

間伐材搬出の様子



写真5

間伐された森林の様子



写真6

間伐材搬出の様子

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7の(2). その他資料

city.iiga.lg.jp/000004578.html

今後、Google Chrome のアップデートを受けるには、Windows 10 以降が必要となります。このパソコンでは Windows 8.1 が実行されています。

伊賀市 Iga City

Google 検索

トップ 防災・暮らし 健康・福祉 教育・文化 スポーツ 観光情報 市政情報

現在位置: トップページ > 防災・暮らし > 産業 > 林業

あしあと: 地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業 > 未利用間伐材バイオマス利用推進事業の募集について

未利用間伐材バイオマス利用推進事業の募集について

[公開日: 2017年6月9日] [更新日: 2022年6月1日] ID: 4578

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

お問い合わせ

伊賀市役所産業振興部農林振興課
電話: 0595-22-9712
ファックス: 0595-22-9715
電話番号のかけ間違いにご注意ください!
お問い合わせフォーム

この記事と同じ分類の記事

- 森林環境譲与税の使途公表について
- DIYに使う伊賀の木を購入できる製材所一気パンフレットを制作しました
- 森林計画回の開催
- 伊賀市森林整備計画
- 林地開発許可制度が変わります!!
- 地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業
- 林野庁「森林の役割などを学べる小学生向けコンテンツ」ついにリリース。早くから!
- 伊賀市未来の山づくり協議会の会員を募集します
- 木製の板乳室をぜひご利用ください
- 【林業】伊賀産材ブランド化事業補助金について
- 林業退職金共済制度について
- 林業労働災害に係る注意喚起について
- 水源地域の森林整備
- 未利用間伐材バイオマス利用推進事業の募集について
- 公共建築物等における木材利用方針を定めました。
- 森林の伐採等の届出について
- 森林の土地を取得したとき

未利用間伐材を搬出して森林整備を進めよう

森林管理を進めるため、未利用間伐材の収集運搬に対し補助金を交付します。
この事業は、みえ森と緑の県民税を財源とした事業です。



未利用間伐材バイオマス利用推進事業の募集について

間伐により伐採された木材のうち、未利用のまま森林内に留置されている間伐材（以下「未利用間伐材」という。）を搬出することにより、森林の適正な管理及び未利用間伐材の有効な利活用を促進するため、未利用間伐材の収集運搬に対し補助金を交付します。

1. 補助対象者

発電利用に供する木質バイオマスの証明にかかる自主行動規範に基づき搬出する森林所有者等

2. 対象森林

伊賀市内の地域森林計画対象民有林

3. 対象となる間伐材

市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業所及び木材流通拠点に搬出された間伐材由来の木質バイオマス証明材

4. 対象となる期間

未利用間伐材の搬出期間と申請期限		
募集期別	搬出期間	申請期限
令和4年度第1期	令和4年4月1日から 令和4年6月末日まで	令和4年7月15日
令和4年度第2期	令和4年4月1日から 令和4年9月末日まで	令和4年10月14日
令和4年度第3期	令和4年7月1日から 令和4年12月末日まで	令和5年1月13日
令和4年度第4期	令和4年10月1日から 令和5年2月末日まで	令和5年3月10日

※令和5年3月の搬出分は補助金対象外となりますのでご注意ください。

5. 補助金額

市内の認定事業者へ搬出した未利用間伐材1トン当たり3,000円

6. 申請方法 様式集

1. 登録

木質バイオマス証明材取扱者の登録（出荷者登録）・（登録申請、自主行動規範作成、分別管理）※3年間有効

2. 間伐・搬出

市に（伐採及び伐採後の盗林届）を提出、間伐作業を実施、搬出状況の写真を撮影、発電用チップに係る間伐材等由来の木質バイオマス証明を添えて未利用間伐材買取事業者へ搬出し、計量を受ける。

3. 交付申請

（未利用間伐材バイオマス利用推進事業補助金交付申請書・実績報告書）を市に提出

記入方法で不明点等がありましたら、農林振興課 0595-22-9712 まで、ご連絡をお願いします。

未利用間伐材バイオマス利用推進事業補助金様式関連

申請の手引き (PDF形式、450.37KB)

様式集 (ワード形式、109.07KB)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	リニューアル
番号	事業名					
3	木づかい木育推進事業					
事業費	2,447,287 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			2,447,287円	0	0	

1. 事業の目的

親子での「木育」推進。

古くから「森」や「木」が身近にあった伊賀市では、健やかな子どもの成長と森林の持続的整備に必要な適切な木材利用の推進を図り、森を支える社会づくりにより地域そのものの価値を高め、地域の森林に高い関心を持った人づくりを進める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

- ・ 幼児期からの「木育」を進めるため、親子共に木のぬくもりを共有できる物として、出生のお祝いに伊賀のヒノキの薫る木製フォトフレームを配布する。
- ・ 小学 5 年生が社会科の授業で森林の間伐を学ぶ機会にあわせて伊賀産ヒノキの手作り箸キットを配布する。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

伊賀市

【実施個所及び箇所数】

市内全域

【事業量】

フォトフレーム 出生時 540個
 伊賀産材の手作り箸キット 800個
 レターパック 48通

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木に触れることで、木の薫りとぬくもりを感じることができるとともに、リーフレットを配布することにより親子で木に関心を持つ機会を作る。また、社会科の授業と併せて森に関する人づくりを行うことが出来る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

配布時に、伊賀産材を使用していることなど直接伝えることで、木や森林に関心を持つ機会を創出した。

【新たな対策・視点及び改善点】

1歳半検診時に木製 (伊賀産材) のスプーンを、3歳児検診時に木製 (三重県産材) の子ども用のお箸を保健師の手から、木育リーフレットの配布にあわせて配布していたが、子どもがスプーンを噛んで飲み込む事象が発生したため、令和 4 年度は配布対象年齢を上げ、伊賀産ヒノキの手作り箸キットを配布することとした。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	リニューアル
番号	事業名					
3	木づかい木育推進事業					
事業費	2,447,287 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			2,447,287円	0	0	
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】						
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】						
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考		
物品購入	個人	補助事業ではない				
【委託先及び補助対象者等の選定理由】						
指名競争入札により発注、購入した。						
【主な経費内訳】						
(別紙のとおり)						
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】						
【受益者及び、期待する波及効果】						
受益者	新生児540人、小学5年生800人					
期待する波及効果	受益者及び家族が木材に愛着を感じるようになり、木製品を好むようになる、森林環境に関心を持つ。					
【公的関与の必要性】						
多くの市民に配布物による木のぬくもりを感じてもらうため。						
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】						
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。						
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】						
【情報発信の内容】						
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）				
チラシ等配布	実施中	フォトフレーム、手作り箸キットに事業の目的等を記載したチラシを添付のうえ配布した。				
TV（行政チャンネル）	実施後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。				
アンケート実施	実施中	親に対する県民税を活用した旨のPRをこめたアンケートを実施した。				
パネル展示	実施後	県と協同で市庁舎イベントブースで県民税PRパネル展示を行った。				
7. 写真及びその他資料						
別紙のとおり						
8. その他特記事項（受益者の反応等）						
手作り箸キットの配布について、感想の手紙を一つの小学校から頂き、来年度も継続してほしい旨の要望をいただいた。						

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	リニューアル
------	-------------	-----	-----	---------	--------

事業名	木づかい木育推進事業
-----	------------

7 の (1) . 写真



写真1
フォトフレーム (表)



写真2
フォトフレーム (裏)

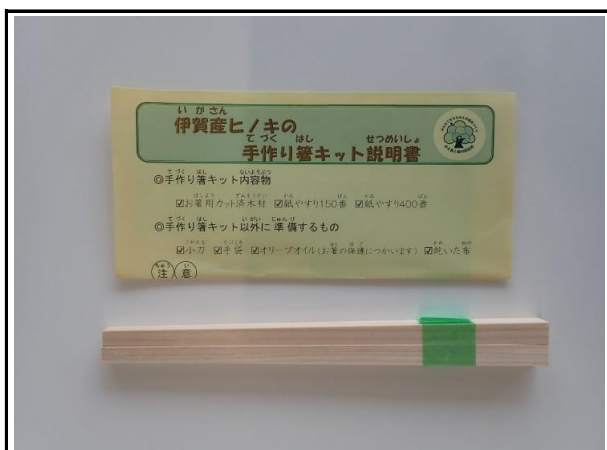


写真3
伊賀産材の手作り箸キット

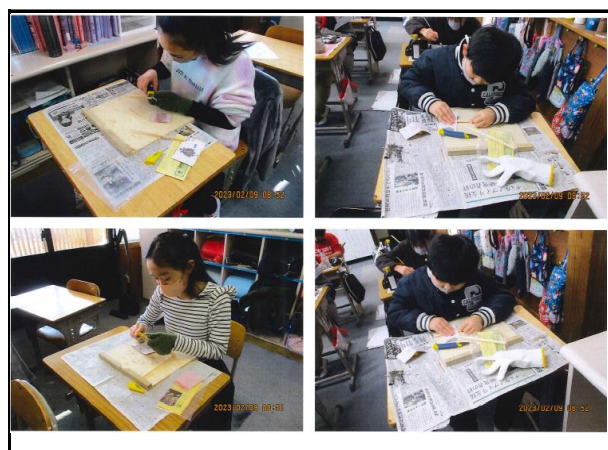


写真4
小学 5 年生 箸製作の様子



写真5
小学 5 年生 箸製作の様子



写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	リニューアル
------	-------------	-----	-----	---------	--------

事業名	木づかい木育推進事業
-----	------------

7の(2). その他資料

「森からのプレゼント」

伊賀の森林は古くから人との関わりの中で、生活に豊かな恵みをもたらしてきました。
森の人とのたゆまぬ営みを子どもに伝えるきっかけとして、また木のぬくもりを感じ、豊かな暮らしを送っていただけるよう、「みえ森と緑の県民税」を財源にして、伊賀のヒノキで作ったフォトフレームをお送りします。



みえ森と緑の県民税

伊賀市長



かおり。
てざわり。
ぬくもり。

伝えつづけたい、日本の木のやさしさ。
使って、使って壊れて、買っても、買っても「木づかい」

木づかい.com 林野庁 <http://www.maff.go.jp>

い さん
伊賀産ヒノキの
てつく はし
手作り箸キット説明書



◎手作り箸キット内容物

- お箸用カット済木材 紙やすり150番 紙やすり400番

◎手作り箸キット以外に準備するもの

- 小刀 手袋 オリーブオイル(お箸の保護につかいます) 乾いた布

注 意

お箸を作る時は、説明書をよく読んで、先生の指導の下で作業してください。

自然を守るために、わたしたちにできること

森林には、自然の力によって繁栄し、育ってできた天然林は、木材を作るために人が材や木屑などの廃棄物を植えてきた人工林があります。人工林は、天然林と違って、人が手を加えなければなりません。間伐しない人工林の働きが弱まっています。森林は、木材を生産し、人に安らぎをもたらすために大切に扱われています。また、木を育てると、「木を植える一斉して切り出す→また木を植える」ことを繰り返すので、人工林を守ることにつながります。

この手作り箸キットの箸は、伊賀市内の森林の間伐材で作りました。

伊賀の木でお箸をつくることで、木を身近に感じてもらい、森林への関心を持ってください。

ヒノキ(檜)ってどんな木?



間伐つの様子



ヒノキの材は木目の美しさ、香りの良さ、耐久性や防水性の高さから優良な建築材とされています。

はし つく かた
お箸の作り方

1. 小刀でけずる



お箸用カット済木材を小刀で削ります。木目をよく見て、木目に逆らわないに削りましょう。手袋を着用し、ケガをしないように注意してください。刃物の前に手を置くような使い方は大変危険ですので、絶対にしないでください。人の近くでは作業しないでください。刃は絶対に人に向けてください。刃物での削りは着目して、紙やすりをかけることでつくることも出来ます。

2. 紙やすりでみがく



紙やすりでみがくと、木の表面をなめらかに仕上げることができます。紙やすりには、いろいろな目のあかさのものがあります。数字が大きいほど細かい目がついています。初めはある目のもの(150番)を使い、細かい目(400番)にかえて表面をなめらかにします。紙やすりは、いろいろな向きがあり、削って使用する向きがおすすめです。

3. 油をぬる



お箸を使っていると、ささくれが入ることがあるので、ささくれを防ぐために、こまめに油分を与えてあげることが大切です。オリーブオイル(油)を木目にそって乾いた布で軽くぬりこんでください。ぬりこんだら、乾いた布で部分をしっかりとふき取ってください。ふき取れたら、油分が乾燥してから使用してください。※エゴマ油やアマニ油を代わりに使うことも出来ます。



伊賀産ヒノキの手作り箸キットは「みえ森と緑の県民税」を財源に、伊賀の間伐材で作っています。

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
4	伊賀の森っこ育成推進事業					
事業費	2,845,392 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			2,845,392円	0	0	

1. 事業の目的

森林環境への関心や要望が高まるなか、次代を担う子ども達の森林・林業への理解と関心を学校教育の場においても学習できるようにする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等が実施する、森林のはたらきや森林・林業の歴史についての学習活動、木工利用、木工体験 (竹材等も含む)、間伐体験、里山整備活動、植物・樹木観察、野生生物・昆虫観察など、森林・自然や木と関連した森林環境教育にふさわしい内容の活動に対して、活動費用を補助する。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等

【実施個所及び箇所数】

16箇所 (学校)

【事業量】

事業量：市内小中学校 16校60学級で実施

事業費：2,845,392円 (補助金額)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

市内に在学している小中学生が「森のせんせい」などの講師から、森林のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることが出来た。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

事業開始から申請数が増え、継続して要望もあることから、今後も継続して事業を実施していく。

【新たな対策・視点及び改善点】

小学校と中学校で、年齢・学年に応じた体験を行うことで、子どもたちにより知識・理解を深めることが出来た。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
4	伊賀の森っこ育成推進事業					
事業費	2,845,392 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			2,845,392円	0	0	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	最上級学年の学級数×10万円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加生徒自動総数1,123人
期待する波及効果	生徒に森林環境教育や木工体験を実施し、身近な森林への興味関心を育んだ。

【公的関与の必要性】

市内の小中学校生徒を対象としており、より多くの生徒に森林環境教育を実施するため必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（CATV）を通じて、県民税及び事業のPRを行った。
チラシ等配布	実施前	学校担当者に対し、校長会の際に本事業の内容について説明した。
学校だより等掲載	実施後	事業を実施した小中学校の学校だよりやホームページで保護者や生徒に対し、「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。
パネル展示	実施後	伊賀市役所内にて「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展示した。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

各学校からは、児童生徒の森林に対する興味・関心・意欲が深まり、実生活に活かすことが出来ているとの声を多数頂いている。学校担当者からは、森林教育を行う上で、必要不可欠な取り組みとの声もある。

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
伊賀の森っこ育成推進事業補助金交付	学級	60.00		2,845,392	16団体
事業費				2,845,392	

作業内容	名 称	学級数	参加人数	単価	金額	備考
学校教育における森林環境教育・木工体験・林業体験	崇広中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	131.00		327,500	
	島ヶ原小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	6	71.00		100,000	
	府中小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	43.00		100,000	
	青山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	3	78.00		200,000	
	神戸小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	40.00		100,000	
	成和東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	16.00		100,000	
	城東中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	3	90.00		225,000	
	依那古小学校伊賀の森っこ推進事業委員会	3	29.00		100,000	
	緑ヶ丘中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	5	149.00		447,000	
	西柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	6	61.00		100,000	
	上野西小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	10	150.00		400,000	
	青山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	54.00		144,200	
	上野北小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	54.00		52,140	
	上野東小学校伊賀の森っこ育成推進実行委員会	7	103.00		299,502	
	阿山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	28.00		50,050	
壬生野小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	26.00		100,000		
	計	60	1,123		2,845,392	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

7 の (1) . 写真



写真1

森林環境学習



写真2

木工体験



写真3

林内散策



写真4

製材所見学



写真5

どんぐり、落ち葉拾い



写真6

林内散策

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

7の(2). その他資料

おひさま

青山小学校
1年学年通信

しゃがいけんがく し 社会見学のお知らせ

子どもたちが楽しみにしている社会見学を10月19日(水)に実施する予定です。行き先は、上野森林公園です。ネイチャークラフト体験や散策を楽しみ、季節や自然に親しむ学習をしたいと考えています。爽やかな社会見学になるよう準備をすすめています。準備等お世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 期日 2022年10月19日(水) 雨天決行

2. 目的地 上野森林公園

3. おらい
- ・ネイチャークラフトに取り組み、作品作りを楽しむ。
 - ・森林公園をめぐり、季節や自然に親しむ。
 - ・公共の場でのマナーや正しい集団行動のあり方を学ぶ。



4. 行程

青山小学校 → 上野森林公園ビジターコテージ(クラフト体験・散策) →

9:00 10:00~11:50

→ 鹿だまりの丘(昼食) → 青山小学校

12:00~13:10 14:00帰省

5. 参加児童 1年生54名

引率者 青山貞恵 武内善奈 等西善奈 松浦委員 坂下真代 岡田みこ(6名)



6. 持ち物・服装

リュックサック・弁当・水筒・ハンカチ・ティッシュ・お手ふき
ゴミ袋・ビニールシート・おやつ(200円まで)・雨具
動きやすい服装・蒸気帽子・はきなれた運動靴・マスク2枚(準備1枚を替む)

7. その他

- ・服装通り通学団で登校します。欠席の場合は、学校(電話52-0040)へ連絡をしてください。(8時15分までをお願いします)
- ・帰りは、至真学校に到着し休憩をしてから、14:40に通学団下校をします。
- ・おやつ(200円以内で食べられる分)は、各自で準備してください。
- ・バスに乗るのは30分程ですが、乗り物酔いや体調のことでお叱りなことがありましたら、連絡帳にご記入いただき、早めにお知らせください。
- ・上野森林公園への社会見学は伊賀の森っこ育成推進事業の一部として実施しており、費用については「みえ森と緑の景観税」から補助をいただきます。

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	リニューアル
番号	事業名					
5	地域の森と緑のつながり支援事業					
事業費	80,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			80,000	0	0	

1. 事業の目的

地域住民が森林・林業にふれあう機会が少なくなってきたため、地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援することで、地域住民や子どもたちが共に森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

住民自治協議会等が実施主体として、森・緑・木材と地域とのつながりを目的に行う一般募集の森林・林業・環境学習・木工などのイベントや研修活動に対して、必要な費用を補助する。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

住民自治協議会等

【実施個所及び箇所数】

住民自治協議会等

【事業量】

2箇所

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林を支える地域において、補助事業によるイベント等を通して、県民税のぼり等をPRに活用して、森を育む人づくり・森を支える社会組織づくりに貢献した。直接的に、森づくりやみえ森と緑の県民税の趣旨について、市民に伝えることができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

他の事業に比べ申請数が少なく、あまり活用がされていないため、より多くの団体に活用してもらえるよう、補助事業活用事例の周知などを行う。

【新たな対策・視点及び改善点】

地域における森林の大切さを知らせることが出来た。森林・林業等全般への理解・関心を高めた。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	リニューアル
番号	事業名					
5	地域の森と緑のつながり支援事業					
事業費	80,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			80,000	0	0	
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】						
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】						
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考		
補助事業	地域協議会等	10/10以内	上限 5 万円/団体			
【委託先及び補助対象者等の選定理由】						
補助事業による選定のため、該当なし						
【主な経費内訳】						
(別紙のとおり)						
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】						
【受益者及び、期待する波及効果】						
受益者	受益者：市内住民 活動団体数：2団体 活動参加人数：59人					
期待する波及効果	地域住民が森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられる					
【公的関与の必要性】						
地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援するもので、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。						
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】						
施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。						
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】						
【情報発信の内容】						
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）				
HP掲載	実施前・中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。				
TV（行政チャンネル）	実施後	市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（CATV）を通じて、県民税及び事業のPRを行った。				
パネル展示	実施後	伊賀市役所内にて「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展示した。				
7. 写真及びその他資料						
別紙のとおり						
8. その他特記事項（受益者の反応等）						

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
地域の森と緑のつながり支援事業補助金	団体	2	上限50,000円	80,000	
事業費				80,000	

作業内容	名称	人数	活動内容	補助金額	備考
地域の森と緑の つながり支援事 業一覧	布引地域住民自治協議会	30	自伐型林業研修	50,000	
	阿波地域住民自治協議会	29	伊賀の林業の未来 研修会	30,000	
	計	59		80,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	リニューアル
------	-------------	-----	-----	---------	--------

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

林業研修(布引地域住民自治協議会)



写真2

林業研修(布引地域住民自治協議会)



写真3

林業研修(阿波地域住民自治協議会)



写真4

林業研修(阿波地域住民自治協議会)

写真5

写真6

写真5

写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	リニューアル
------	-------------	-----	-----	---------	--------

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

7の(2). その他資料



le Chrome のアップデートを受信するには、Windows 10 以降が必要となります。このパソコンでは Windows 8.1 が実行されています。

令和5年度 地域の森と緑のつながり支援事業補助金

1. 実施主体
住民自治協議会
2. 実施期間
交付決定日から令和6年2月末日
3. 事業内容
住民自治協議会が主催する森林環境に関するイベントおよび学習活動
4. 事業目的
子どもたちが地域住民とともに、森林・林業への理解とそのつながりを深める。

※詳しくは、下記の「地域の森と緑のつながり支援事業補助金の概要」をご確認ください。事業の実施には、各要件がありますので、事前に農林振興課計画係までお問い合わせください。

添付ファイル

[令和5年度地域の森と緑のつながり支援事業概要 \(PDF形式、184.94KB\)](#)

[様式集 \(ワード形式、25.14KB\)](#)

[様式集【記入例】 \(PDF形式、336.11KB\)](#)

- [平成25年度会議要録・会議資料](#)
- [平成28年度会議要録・会議資料](#)
- [平成26年度会議要録・会議資料](#)
- [伊賀市庁議\(総合政策会議、市政運営会議\)について](#)
- [平成27年度会議要録・会議資料](#)
- [上野市駅前地区市街地再開発事業](#)
- [再開発Q&A](#)
- [地域主体の「みえ森と緑の県民税」関連事業](#)
- [伊賀市森林整備計画](#)
- [伊賀市農業再生協議会について](#)
- [認定農業者になるために](#)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
6	森のやすらぎ空間整備事業 (伊賀の木活用人材育成)					
事業費	700,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			700,000円	0	0	

1. 事業の目的

市内の間伐材の利用と地域の木材を活用できる人材の育成を目的とする。
市民から必要とされている木製品を開発する中で、若い人材や地域団体などが、伊賀の木の活用ノウハウを身に着ける。

2. 事業実績概要

【事業内容】

校区再編により新設される上野南小学校に設置する消毒液台を市内の間伐材等を利用し、市内の高校で組織する実行委員会で開発する。また、材木の活用ノウハウを知るため、木工技術等の研修を実施する。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

伊賀白鳳木育推進実行委員会

【実施個所及び箇所数】

上野南小学校に、伊賀白鳳高等学校の学生等が開発設計・制作した消毒液台を設置。(1箇所9台)

【事業量】

開発、材料、道具、広報 700,000円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木工や建築を志す高校生が木製消毒液台を開発・制作することで、木製消毒液台を使用する上野南小学校児童が木に対し愛着を持つことが期待出来る。

地域材の活用技術が継承され、市民に直接木材の良さと木材利用の必要性を伝えることが期待出来る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

これまで続けてきて地元団体からの要望も高く、また高校生の木製品の製作を通して木や森林に関心を持つ良い機会となるため、今後も継続して実施する。

【新たな対策・視点及び改善点】

今後も地元団体や高校等と連携しながら、伊賀産材の活用及び人材育成に努める。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）					
事業費	700,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			700,000円	0	0	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	上限70万円/ 1か所あたり	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
補助事業による選定のため、該当なし				
【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	上野南小学校の児童約130人			
期待する波及効果	木製消毒液台を使用する児童が木に愛着を持つことが出来る			
【公的関与の必要性】				
制作主体が伊賀白鳳高校の生徒であり、その生徒達の木育・木活用人材育成となるような取り組みを目指しているものであるため、公的関与が必要であると考えられる				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
木製消毒液台は、上野南小学校に設置する目的の元で開発・制作されるものであるため、転用の懸念は無いと考えられる。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
TV（行政チャンネル等）	実施中	市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（CATV）を通じて、県民税及び事業のPRを行った。		
パネル展示	実施後	伊賀市役所内にて「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
開発・制作を通じて、高校生は木工技術の習得及び受益者へのプレゼンテーションを経験することになり、人材育成の貴重な機会となっている。				

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	森のやすらぎ空間整備事業 (伊賀の木活用人材育成)
-----	---------------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金					700,000	
自己資金					113	
事業費					700,113	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
伊賀白鳳木育推 進実行委員会 (白鳳高等学校 生徒) による製 品開発	使用料				36,230	
	燃料費				7,247	
	原材料費				283,006	
	需用費				371,210	
	その他				2,420	
	計				700,113	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森のやすらぎ空間整備事業 (伊賀の木活用人材育成)
-----	---------------------------

7 の (1) . 写真



写真1

神戸小学校 プレゼンテーションの様子



写真2

プレゼン後の飽ひき体験



写真3

依那古小学校 プレゼンテーションの様子

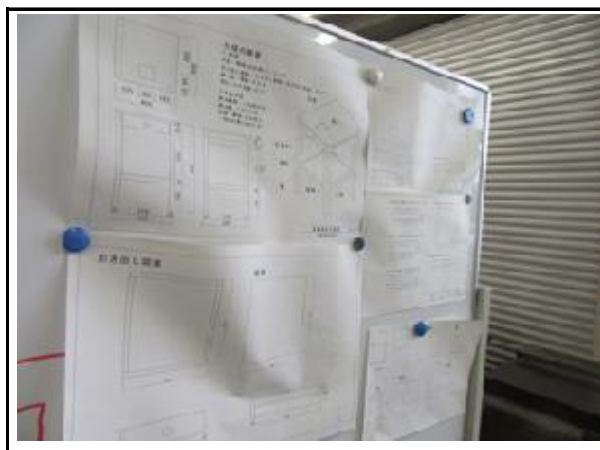


写真4

設計状況



写真5

設計状況



写真6

製作の様子

尾鷲市

第 1 1 号様式 (その 1) (評価委員会資料)

令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報 (平成30年度版三重県市町要覧による)

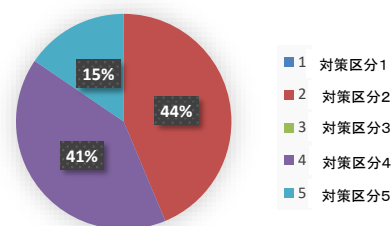
市町名	尾鷲市	三重県
人口 (人)	16,567	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	9.1%	12.4%
森林面積 (ha)	17,703.01	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	14,933.86	348,833.49
森林率 (%)	92.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	6.0	10.1

* 1 : 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2 : 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。)

* 3 : 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	人家裏危険木伐採事業	829,000	829,000		829,000				
2	2	矢浜公園ほか整備事業	4,543,000	4,543,000		4,543,000				
3	4	木とふれあう学校環境づくり	177,320	177,320				177,320		
4	4	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業	4,844,400	4,844,400				4,844,400		
5	5	中村山公園整備事業	1,903,000	1,903,000					1,903,000	
計			12,296,720	12,296,720	0	5,372,000	0	5,021,720	1,903,000	0

3. 令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	2.14ha	3,300,000	3,300,000	間伐等 (災害緩衝林一体型)
森林再生力強化対策事業	365m	520,530	520,530	獣害防止施設設置等整備
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	<p>本市は面積の約90%を森林が占め、居住地のすぐ側に自然と触れ合える環境に恵まれている。古くから林業、漁業、農業など一次産業を中心としたまちとして歩んできた歴史があり、学校でも地域の産業を学ぶ授業でこれら地場産業の紹介がなされ、また、山・川・海をフィールドとした体験学習が実施されるなど、地域の歴史と循環型社会の展望を学ぶ場として森林は切っても切り離せない大切な役割を果たしている。</p> <p>一方で、近年では災害による被害が拡大傾向にあることから、災害に強い森林づくりは大変重要なものと考えている。危険木等についても伐採したままにするのではなく、園児や児童、生徒への木育の機会を設けるツールとして利用する方法を考えると共に、災害の未然防止と森林教育の更なる充実を図る観点から事業の選定を実施している。</p>
事業実施により期待される効果	<p>人家裏や公園の危険木伐採は、災害に強い町づくりの推進に一定の効果が得られたと考えており、この点については、事業実施後の住民の反応や声をみても、いずれも好意的なものであったため、安心安全の確保に効果があったと感じている。また、市内中学校へ地元産材で作った机、椅子を導入することにより、地元産材がどのような工程を経て机、椅子になったかを学習する良い機会になったと感じている。</p>
情報発信への取組	<p>令和3年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、体験や交流のイベントはほとんど開催できなかったため、ホームページや広報誌での情報発信がほとんどであったが、危険木除去等では伐採した箇所に看板を設置する等し、市内小学校への天板の設置、市内中学校への机、椅子の導入の際に、ロゴマークシールの貼り付けを行ったため、一定の周知は図れたと思う。</p>

第 1 1 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 4 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	16,934	16,934
2	⑥ 林道・林専道の整備等	9,164	3,253
3	⑰ 基金積立 (森林整備等)	16,393	16,393
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	42,491	36,580

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	人家裏危険木伐採事業					
事業費	829,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			829,000			

1. 事業の目的

人家に密接する放置林において、自治会等が自主的に行う人家裏にある山林の危険木伐採費用の一部を補助し、災害を未然に防止することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

自治会等が事業主体となり、人家に隣接する山林内の危険木で緊急に伐採する必要がある場合に限り、その費用の一部を補助する。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

自治会・自主防災会等

【実施個所及び箇所数】

2地区 (三木浦地区・須賀利地区)

【事業量】

三木浦地区：30本、須賀利地区：4本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

当地域は、背後に急傾斜を有する人家が多く、台風や集中豪雨の際に風倒木等の恐れがある。危険が想定される人家裏山林の危険木を伐採することにより、森林の適正な整備が促進され、災害を未然に防止できる。また、地域住民がお互いに災害の危険性を認識していただくことで、森林整備の必要性を改めて認識される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

昨年度以前と同様に、要望が寄せられた自治会等の方々と森林伐採の専門家も同伴での現地確認を行うことで、より防災効果の見込める効果的な伐採箇所の選定を実施している。

【新たな対策・視点及び改善点】

事業の開始以降、地域住民や地区からの要望に基づき、市と住民が一体となった危険箇所の点検や森林等の整備に活用されており、毎年度一定の効果が挙がっていることから、令和 5 年度も引き続きみえ森と緑の県民税を活用した事業を実施する。

令和4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	人家裏危険木伐採事業					
事業費	829,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			829,000			
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】						
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】						
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考		
補助事業	自治会等	9/10以内	500,000円	補助率は伐採費用の80%		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】						
地域で危険だと認識し、地域全体で防災意識を持ってもらうのが主旨であるため						
【主な経費内訳】						
(別紙のとおり)						
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】						
【受益者及び、期待する波及効果】						
受益者	危険木伐採により生活環境が向上する地区は2地区					
期待する波及効果	森林の重要性に対する住民意識や防災意識の向上					
【公的関与の必要性】						
市が補助を出すことで住民自ら危険木の伐採を進めることにより、災害時の倒木等を未然に防止する観点があるため						
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】						
森林所有者との調整は申請者（自治体等）が行っている。						
森林所有者が適正に管理。						
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】						
【情報発信の内容】						
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）				
HP掲載	実施前・後	実施前：令和4年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和5年度当初に令和4年度事業実績の報告				
広報誌掲載	実施前	令和4年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載				
標識・標柱等設	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。				
その他						
7. 写真及びその他資料						
別紙のとおり						
8. その他特記事項（受益者の反応等）						
今年度は三木浦地区、須賀利地区を対象に行ったが、両地区の区長からよくなった等の好印象の言葉をいただいた。						

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
事業名	人家裏危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金(三木浦地区)	危険木伐採 (30本)	式	1.00	327,000	327,000	人家裏、斜面等
補助金(須賀利地区)	危険木伐採 (4本)	式	1.00	458,000	458,000	人家裏、斜面等
需用費	木製標柱	本	2.00	22,000	44,000	
				合計	829,000	

※補助金（須賀利地区）については、伐採箇所の横に谷川がある点等により、伐採本数は少ないものの、特殊伐採による作業で費用が高額となった。

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7 の (1) . 写真



写真1
実施前 (三木浦地区)



写真2
実施前 (三木浦地区)



写真3
実施後 (三木浦地区)



写真4
実施後 (三木浦地区)



写真5
看板設置 (三木浦地区)



写真6

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7 の (1) . 写真



写真1

実施前 (須賀利地区)



写真2

実施前 (須賀利地区)



写真3

実施後 (須賀利地区)



写真4

実施後 (須賀利地区)



写真5

看板設置 (須賀利地区)



写真6

写真6



オワwase

小さな手から

おもいでを創る

6-2022

尾鷲幼稚園では、園での思い出などをレゴブロックで作っています。教育委員会、尾鷲幼稚園では、使わなくなったレゴブロックを集めています。詳しくはお問い合わせください。

(教育委員会 ☎8291 尾鷲幼稚園 ☎0859)

みえ森と緑の県民税市町交付金事業の実績と計画をお知らせします



市では、三重県から交付される「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用して様々な事業に取り組んでいます。

令和3年度の事業実績報告と令和4年度事業計画についてお知らせします。

令和3年度実績報告

① 人家裏危険木伐採事業

倒木等が心配される人家裏の危険木を伐採し、災害を未然に防止するため、3地区の自治会などに伐採費用の一部を補助しました。

② 野鳥の小径遊歩道等整備事業

野鳥の小径(三木里町)について、来訪者が安心・安全に利用できるように、新たに歩道の全体像を示す木製の案内看板を整備いたしました。

③ 中村山公園整備事業

中村山公園の枯損木などの除去を行い、市民が安心・安全に自然に触れ合える公園整備を行いました。

④ 野地町駅前児童公園ほか整備事業

野地町駅前公園などにある樹木の中で、落下の恐れのある枝や道路に張り出した枝の剪定、倒木の恐れのある危険木の伐採を行い、市民が安心・安全に自然と触れ合える公園整備を行いました。

⑤ 木とふれあう

学校環境づくり事業

宮之上小学校で、木材への関心と愛着を持ち大切にする心を育むことを目的として、尾鷲産材の木製の机・椅子を再利用し、新入生が損傷部分の取り換え組立て等を行いました。

② 中村山公園整備事業

中村山公園の枯損木などの除去を行い、危険を未然に防ぎ、市民が安心・安全に自然に触れ合える公園整備を進めていきます。

③ 矢浜公園ほか整備事業

矢浜公園などにある高木となつている樹木や園内からはみ出している枝の伐採除去を行い、危険を未然に防ぎ、市民が安心・安全に自然に触れ合える公園整備を進めていきます。

④ 木とふれあう

学校環境づくり事業

宮之上小学校、賀田小学校で、尾鷲産材の木製の机・椅子を再利用し、新入生による損傷部分の取り換え組立て等を行うことで、木材への関心と愛着を持ち大切にする心を育む学校環境づくりを進めていきます。

⑤ 尾鷲中学校学習机・椅子整備事業

自分たちの机や椅子が地元の人々から切り出されたものであることを知ってもらい、木

令和4年度事業計画

① 人家裏危険木伐採事業

倒木等が心配される人家裏の危険木を伐採し、災害を未然に防止するため、自治会などによる人家裏危険木の伐採費用の一部を補助していきます。

尾鷲産材活用事業補助金の補足について

4月1日からリニューアルを行った尾鷲産材活用事業ですが、【住宅改修の場合】の補助額について以下のとおり補足いたしますので、確認のうえお申し込みください。

【補助額】費用の2分の1と5万円のどちらか低い方の額
※上限額は5万円です。

の良さに触れながら森林の大切さを学ぶツールとして、尾鷲産材で製作した机・椅子を導入します。

お問い合わせ

水産農林課 ☎ 8224

みえ森と緑の県民税啓発状況
本庁舎1階展示スペースにて
(令和5年2月21日～3月3日)



令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
2	矢浜公園ほか整備事業					
事業費	4,543,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			3,858,280	684,720		

1. 事業の目的

子供から大人まで市民の憩いの場として活用されている市内の公園内の樹木を整備し、安全に安心して多くの市民が公園内で遊んだり寛ぐことができる、豊かな生活環境を実現することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

- ・公園内において落下の恐れのある腐朽枝や園周辺の樹木の伐採、枝の剪定、倒木の恐れのある危険木の伐採、展望の支障となっている樹木の伐採、及び雑草等の除去を実施した。
- ・市民が自然と触れ合える親しみやすい公園を整備するため、ヒノキの間伐を行い日照を良くした。
- ・小学生を対象とした森林教育 (間伐(7月)、木工(12月)) については、新型コロナウイルス感染症による自宅待機により急きょキャンセルとなる児童もいたが、間伐・木工体験共に無事実施することができた。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

尾鷲市

【実施箇所及び箇所数】

4 ヶ所 (矢浜公園、賀田児童公園、北浦児童公園、大曾根公園)

【事業量】

- ・矢浜公園及び矢浜コミュニティセンターでの森林教育
- ・賀田児童公園内及び北浦児童公園内の高木及び園内からはみ出している枝の剪定及び伐採
- ・大曾根公園に植生しているヒノキの内、日照に影響を与えており、間伐が可能なもの、及び周辺に植生しているヒノキの除伐

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

子供から大人まで多くの市民憩いの場として活用している公園ではあるが、園内の樹木が高木となったり、枝が大きく張り出し危険な状態となってきていることから、それらを伐採することにより、安全安心に多くの市民が利用し、豊かな生活環境を実現することを目的とする。

大曾根公園では、ヒノキを除間伐することにより、下層部に植生しているツバキへの日照を良くし成育・開花を促す。

小学生を対象とした森林教育においては、自分たちで伐採した間伐材を乾燥させた材料を用いて木工体験を実施したことで、次世代に対し木の大切さや親しみを持ってもらえるようになる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

伐採木は、地区会長や近隣住民の意見を参考としながら選定をおこなった。

大曾根公園の伐採木については、樹木医の意見も参考にしながら選定を行うとともに、伐採により下層木であるツバキに影響の出ない樹木を選択して伐採を行った。

矢浜公園では小学生を対象に伐採木を活用した森林教育 (間伐・木工体験) を実施した

【新たな対策・視点及び改善点】

森林教育の実施においては、地域児童数の減少から参加児童の固定化が懸念されており、令和6年度以降の森林教育について対象児童及び実施箇所について検討していく必要がある。

令和4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
2	矢浜公園ほか整備事業					
事業費	4,543,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			3,858,280	684,720		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	-	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

- ・指名競争入札による業務委託
- ・安全面と専門的な技術が必要となるため

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用する市民
期待する波及効果	危険な状態となっていた園内の樹木を伐採、剪定したことにより、来園者が安心して利用することができるようになった。

【公的関与の必要性】

市有地（都市公園）であるため、市が管理を行う必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和4年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和5年度当初に令和4年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和4年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
標識・標柱等設	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

森林教育については、楽しかったや間伐体験をして作った輪切の木を両親に見せたい。などの言葉ももらった。

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
------	-----------------	-----	-----

事業名	矢浜公園ほか整備事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託料	立木伐採処理	式	1.00	4,110,000	4,110,000	11本
需用費	木製看板	個	1.00	20,000	20,000	
				小計	4,130,000	
				消費税	413,000	
				合計	4,543,000	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	矢浜公園ほか整備事業
-----	------------

7 の (1) . 写真



写真1

森林教育 (育林について(7月))



写真2

森林教育 (育林について(7月))



写真3

森林教育 (間伐体験(7月))



写真4

森林教育 (木工体験(12月))



写真5

森林教育 (木工体験(12月))



写真6

標柱碑設置写真 (矢浜公園)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	矢浜公園ほか整備事業
-----	------------

7 の (1) . 写真



写真7

北浦児童公園 伐採前



写真8

北浦児童公園 伐採後



写真9

賀田児童公園 伐採前



写真10

賀田児童公園 伐採後



写真11

標柱碑設置写真 (北浦児童公園)



写真12

標柱碑設置写真 (賀田児童公園)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	矢浜公園ほか整備事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

大曽根公園 支障木 伐採前①



写真2

大曽根公園 支障木 伐採後①



写真3

大曽根公園 支障木 伐採前②



写真4

大曽根公園 支障木 伐採後②



写真5

大曽根公園 支障木 伐採前③



写真6

大曽根公園 支障木 伐採後③

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	矢浜公園ほか整備事業
-----	------------

7 の (1) . 写真



写真1

標柱碑 写真 (大曾根公園)



写真2

標柱碑 写真 (大曾根公園)

写真3

写真4

写真3

写真4

写真5

写真6

写真5

写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
3	木とふれあう学校環境づくり事業					
事業費	177,320 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			177,320			

1. 事業の目的

本交付金を活用し、市産材で制作した木製の机・椅子を平成26年度に宮之上小学校へ、令和元年度に賀田小学校へ配置し、木の温もりにふれあう快適な学習環境を構築した。将来にわたって児童が自分の机・椅子として使用するとしているが、日々の使用によって損傷するため、これを修理し再使用する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木製機の修理又は損傷の激しいものは部品 (県産材) 交換を行う。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

尾鷲市教育委員会

【実施個所及び箇所数】

尾鷲市立宮之上小学校、尾鷲市立賀田小学校

【事業量】

市産材で制作した組立式の机の天板

(宮之上小学校16枚、賀田小学校10枚)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

交付金事業により、木製の机・椅子を整備することで、木の持つ温かみや香り、肌触りなどの木の良さを実感できる快適な学習環境を構築する。木製ということもあり、使用により損傷してしまうものもあるが、将来にわたって使用する計画であることから、修理し再使用することとしている。このことから、物を大切にしようとする心を養うことができ、さらに、森林の重要性・必要性について学ぶ機会を得ることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

宮之上小学校については、尾鷲ヒノキでできていることを説明し新入生自ら机の天板の交換を実施した。

賀田小学校については、尾鷲市の取組で木育を実施した際に、運動場で山林を再現し、植え付けから間伐、製品になるまでを説明し循環の説明を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

児童が使用する机・椅子は、地元の「尾鷲ヒノキ」を使った木の温もりが感じられるものであり、それ自体が木育をするための1つの教材と捉えている。天板を変えずと使っていくことは、卒業生から新入生へものを大切にしたい想いを繋ぐと共に、天板に使用した成木のあとに幼木を植樹することによる森林の繋がりや、持続可能な社会の実現に向けた森林教育及び情操教育を行うツールとして活用していきたい。また、授業時間を確保し、市職員による地域材「尾鷲ヒノキ」についての説明を実施することで、森林の重要性や地元産材の歴史なども知ってもらった。

令和4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	木とふれあう学校環境づくり事業				
事業費	177,320 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			177,320		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
その他	森林組合	補助事業ではない	-		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
机・椅子の納入業者であり、保守修繕まで一貫した対応が可能であるという理由で選定					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	宮之上小学校・賀田小学校の児童（113名）				
期待する波及効果	学校を主体に実施することで児童生徒及び保護者への波及効果や将来に向かったの波及を見込むことができる				
【公的関与の必要性】					
教育機関への、学習機会の提供であることから費用にかかる公的関与は必要であるとする。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
天板の研磨再利用自体が、管理方法となっている。学校の児童生徒用の机・椅子であるので目的外使用は想定されない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・後	実施前：令和4年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和5年度当初に令和4年度事業実績の報告			
広報誌掲載	実施前・後	令和4年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載			
ロゴマーク掲示 (シル・プレート)	実施後	整備した机、椅子にロゴマーク等を貼り付け			
その他	実施後	授業時間利用した市職員による森林の重要性等の説明を実施			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
表面がすべすべしていいにおいがする等の好印象な感想を多くもらいました。					

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
机天板補修		枚	26.00	6,200	161,200	
	天板表面部分の削直及びUV塗装を実施					
				小計	161,200	
				消費税	16,120	
				合計	177,320	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1
天板



写真2
天板とロゴマーク



写真3
天板と森林について学ぶ児童①



写真4
天板と森林について学ぶ児童②



写真5



写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
4	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業				
事業費	4,844,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,844,400		

1. 事業の目的
市産材で制作した机及び椅子を導入することで、木の良さに触れてもらうと共に、自分たちの机や椅子が普段見慣れている地元の山々から切り出されたものであることを知ってもらうことで、森林の大切さを学ぶツールとして活用する。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>机の天板部分、椅子の座面に地元産材を活用したものを1学年分導入する。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>尾鷲市教育委員会</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>尾鷲市立尾鷲中学校</p> <p>【事業量】</p> <p>市産材を活用した机及び椅子 120組 (令和4年度～令和6年度までの3年間で3学年分を整備予定)</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>市産材で製作した机及び椅子を導入することで、木の持つ温かみや香り、肌触りなどの木の良さを実感できる快適な学習環境を構築する。また、地元の森林から切り出された木材が活かされていることを知ることで、森林がもつ多様性や循環型社会の実現に向けて果たす役割などについて学ぶ機会を得ることができる。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>尾鷲ヒノキの積層構造であるため納入業者より切断した天板と座板を提供してもらい講話の際に断面を見せながら説明を行った</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>生徒が日ごろ使用する机及び椅子は、スチールと擬木等で構成されたものであるため、これらの一部(天板部分及び座面を予定)を地元の「尾鷲ヒノキ」を用いたもので作成し、森林教育における教材の1つとして活用する。授業の中に市職員による森林教育を予定しており、地元の「尾鷲ヒノキ」を使って机、椅子を作成することが普段自分達が目にしている山の再生に繋がること(切り出し→植樹→成長→森林の形成)を学ぶことで、森林整備の大切さと成長サイクル、循環型社会や持続可能な社会の実現に向けた可能性や展望などについて考える時間を設ける。</p>

令和4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
4	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業				
事業費	4,844,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,844,400		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	小売業者	補助事業ではない	-	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

一般競争入札

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	尾鷲中学校の生徒（109名）
期待する波及効果	学校を主体に実施することで児童生徒及び保護者への波及効果や将来に向かっての波及を見込むことができる

【公的関与の必要性】

教育機関への、学習機会の提供であることから費用にかかる公的関与は必要であるとする。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校にて備品登録のうえ使用する。学校の生徒用の机・椅子であるので目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和4年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和5年度当初に令和4年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和4年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
ロゴマーク掲示 (シール・プレート)	実施後	整備した机、椅子にロゴマーク等を貼り付け
その他	実施後	授業時間利用した市職員による森林の重要性等の説明を実施

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

森林教育では、木材を使うと悪い印象になると思っていたが、そこから新しい木を植えることで、また木が育っていくためなんだ。という緑の循環について学ぶことが出来た感想を多くもらいました。

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

事業名	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
	間伐材仕様SSデスク (可動式)	台	120.00	20,001	2,400,120	
	間伐材仕様SSチェア (可動式)	脚	120.00	16,699	2,003,880	
				小計	4,404,000	
				消費税	440,400	
				合計	4,844,400	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
事業名	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業				

7の(1). 写真



写真1

椅子



写真2

椅子のロゴマーク



写真3

机



写真4

机のロゴマーク



写真5

備品と講話



写真6

講話

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
5	中村山公園整備事業					
事業費	1,903,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			1,903,000			

1. 事業の目的						
木と親しむことのできる市街地の中心にある自然豊かな中村山公園を整備し、安全安心に多くの市民が自然に触れ合う機会を設け、豊かな生活環境を実現することを目的とする。						
2. 事業実績概要						
【事業内容】						
市民が自然と触れ合える親しみやすい公園を整備するため、危険木や景観上支障のある樹木及び雑草等の除去を実施した。						
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】						
尾鷲市						
【実施箇所及び箇所数】						
1ヶ所 (中村山公園)						
【事業量】						
中村山公園に植生している危険木や景観上支障のある樹木及び雑草等の除去。						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
【事業実施により期待される効果】						
枯損木や危険木の伐採を行った結果、一部公園利用者の安全性を確保や隣接する住民への日照等もある程度確保することができ、また隣接する小学校からの緊急避難路周辺の支障木についても伐採することができたが、現状においても、未だ木々が生い茂り危険木等も存在することから、引き続き、樹木等の伐採を行い、市民が使いやすく親しみやすい公園に整備することにより自然と触れ合える拠点を提供することができる。						
【効果を発揮させるための工夫・取組】						
伐採木は、ボランティア団体や近隣住民の意見を参考としながら選定をおこなった。						
【新たな対策・視点及び改善点】						
中村山公園は、まちの中心部にある森林に触れ合える公園として整備を進めており、また、市民団体の主導で「木と触れ合う体験」を設けてもらうなど、市と住民が共同した森林の整備と学びの場が確保できているため、引き続き効率的かつ効果的な森林と公園の整備と、公園利用者に対する森林整備の重要性等を伝えていきたい。						
体験の部分については、新型コロナウイルス感染症の影響等による規模の縮小又は中止が懸念される部分はあるが、情報発信など他の方法による効果的な啓発活動を行っていければと考えている。						

令和4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
5	中村山公園整備事業				
事業費	1,903,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,903,000		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
委託事業	森林組合	補助事業ではない	-		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
<ul style="list-style-type: none"> 指名競争入札による業務委託 安全面と専門的な技術が必要となるため 					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	利用する市民				
期待する波及効果	伐採により景観も良くなり、多くの住民が安心安全に遊べる場所となったとともに、桜の名所としての整備を行っていくことにより、将来市内外から来園者が訪れる公園を目指す。				
【公的関与の必要性】					
市有地（都市公園）であるため、市が管理を行う必要がある。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・後	実施前：令和4年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和5年度当初に令和4年度事業実績の報告			
広報誌掲載	実施前・後	令和4年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載			
標識・標柱等設	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
地域住民からも好印象の言葉ももらっている					

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市
------	--------------------	-----	-----

事業名	中村山公園整備事業
-----	-----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託料	立木伐採処理	式	1.00	1,710,000	1,710,000	5 本
需用費	木製看板	個	1.00	20,000	20,000	
				小計	1,730,000	
				消費税	173,000	
				合計	1,903,000	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	中村山公園整備事業
-----	-----------

7 の (1) . 写真



写真1

小学校避難路支障木 伐採前



写真2

小学校避難路支障木 伐採後



写真3

小学校避難路支障木 伐採前



写真4

小学校避難路支障木 伐採後



写真5

子育てHappyDayにおける青竹ふみ作り



写真6

子育てHappyDayにおける青竹ふみ作り

紀北町

第 11号様式（評価委員会資料）

令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和4年度版）」

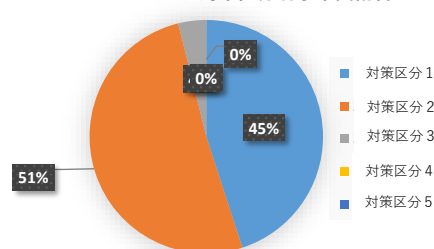
市町名	紀北町	三重県
人口（人）	13,934	1,755,415
年少人口割合（％）＊1	7.7%	11.8%
森林面積(ha)	229.34	372,030.12
民有林面積(ha)＊2	18,009.40	348,559.79
森林率(%)	89.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	52.1	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合



2. 令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					基金積立	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	1	河川周辺森林立枯木整備事業	4,166,132	4,166,132	4,166,132					
2	2	危険木伐採事業	4,658,900	4,658,900		4,658,900				
3	2	集落周辺森林（里山）整備事業	73,600	73,600		73,600				
4	3	森林環境教育活動支援事業	359,416	359,416			359,416			
5		基金積立	3,348,952	3,348,952						3,348,952
6				0						
7				0						
計			12,607,000	12,607,000	4,166,132	4,732,500	359,416	0	0	3,348,952

3. 令和4年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	7.26ha	1,008,771	1,008,771	等高線並べの間伐による緩衝林化
森林再生力強化対策事業	3,773m	857,634	857,634	鳥獣害防護柵新設・補修
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	紀北町は、年間を通じて温暖で降水量が多いという育林に適した気候条件に恵まれ、森林面積(22,976ha)は町総面積の約90%を占め、古くから林業が盛んに行われてきたが、林業を取り巻く厳しい情勢の中で、手入れが行き届かない森林が増加したことで森林の機能低下が進んでいる。このため、町ではこれまでも森林の再生と森林の持つ多面的機能の持続的な発揮に向け、間伐などの森林整備や林道の整備、人家裏危険木の伐採、公共施設への木材利用、小中学生等への林業のPRなどを実施し、多様で健全な森林の育成を行ってきた。今後も県民税を活用し、人家裏危険木の伐採や地元材の利用促進、里山整備、森林環境教育などを実施することで森林の持つ多面的機能の重要性を広く町民に理解してもらう機会を創出し、暮らしに身近な森林の整備を進め、地域の生活環境の向上を図る。
事業実施により期待される効果	河川周辺森林立枯木整備事業では、立枯木を伐採してしまうことにより、大雨が降った際に下流域の橋梁等を損傷させてしまうリスクを減らすことができた。危険木伐採事業においては、事業実施主体である各区の森林管理の意識の向上が見られ、補助金活用の要望が増加した。
情報発信への取組	紀北パーキングエリア内の始神テラスの一角に展示スペースを設け事業成果を示したパネル展示や、ノベルティの配布を行った。また、町民向けの行政放送テレビチャンネルで県民税について取り扱いを行い、事業実施地にはPR用の木製標柱を設置した。

第 11号様式 (その 1) (参考資料)

令和4年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	①意向調査準備	12,625	12,625
2	②意向調査	7	7
3	⑥林道・林専道の整備等	8,684	8,684
4	⑩専門員の雇用	204	204
5	⑬木造公共建築物の整備等	20,834	20,834
6	⑰基金積立 (森林整備等)	18,272	18,272
7			
8			
9			
10			
	合計	60,626	60,626

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
①意向調査の準備作業
②意向調査
③私有林整備
④公有林整備 (財産区有林含む)
⑤森林保護対策
⑥林道・林専道の整備等
⑦その他 (森林整備)
⑧担い手確保
⑨林業就業者の育成
⑩専門員の雇用
⑪新たな組織の設立
⑫その他 (人材育成等)
⑬木造公共建築物の整備等
⑭木質バイオマス利用促進
⑮森林・林業・木材普及活動等
⑯その他 (木材・普及啓発活動)
⑰基金積立 (森林整備等)
⑱基金積立 (人材育成等)
⑲基金積立 (木材利用等)
⑳基金積立 (執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町	新規・継 続の別	継続
番号	事業名				
1	河川周辺森林立枯木整備事業				
事業費	4,166,132 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,166,132		

1. 事業の目的
近年、集中豪雨や台風襲来により、山腹崩壊が多発し、土砂が河川沿いに堆積し、河川沿いの立ち枯れが生じている。これらの立ち枯れ木を放置すれば、今後の集中豪雨により立ち枯れ木が下流域に流れ出し、災害を引き起こす恐れが高いため、伐採・搬出し流木の発生を抑制する。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>河川周辺森林内において、河川沿いの立ち枯れ木等を伐採、搬出して流木の発生を抑制する。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>町</p> <p>【実施箇所及び箇所数】</p> <p>2箇所 (大原地区、十須地区)</p> <p>【事業量】</p> <p>搬出材積 (m³) 大原地区27.83m³、十須地区92.25m³</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>過年度の集中豪雨等で堆積した土砂により枯れた立木を伐採、搬出することで下流域への流出が抑制され、実施地区での安全、安心が確保される。流域住民、漁業関係者等への流木被害が軽減された。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>伐倒木は下流域への影響が出ないように残置せずバイオマス搬出等で有効活用している</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>施業地を分割して広範囲を施業することができた。</p>

4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
1	河川周辺森林立枯木整備事業				
事業費	4,166,132 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,166,132		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		実施主体が紀北町である

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

河川周辺での枯れ木伐採に係る作業技術を有している団体に見積りを徴収しを選出した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	流域住民、漁業関係者 長島地区 約1488戸 海山地区 約1789戸
期待する波及効果	流域住民の安全確保、漁業関係者への被害軽減

【公的関与の必要性】

個人では立ち枯れ木の伐採には手間も費用も掛かることで伐採が遅れてしまうため、町が関与する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

特に設けていない

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

周辺住民や所有者から、河川内の状況がよくなったと好評を得ている。

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	河川周辺森林立枯木整備事業
-----	---------------

7 の (1) . 写真



写真1

三ツ谷①



写真2

三ツ谷②



写真3

下河内①



写真4

下河内②



写真5

標柱設置状況



写真6

始神テラスでのパネル展示

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀北町	新規・継 続の別	継続
番号	事業名					
2	危険木伐採事業					
事業費	4,658,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			4,658,900			

1. 事業の目的						
人家その他公共施設等に密接し、倒木の危険性のある立木による被害を未然に防止し、生活環境の保全や向上を図る観点から人家裏山林の危険木の伐採費用について補助を行う。						
2. 事業実績概要						
【事業内容】						
人家に隣接し、倒木になる恐れのある山林内の危険木について、緊急に伐採等する必要がある場合に限り、その費用の一部を自治会に補助する。						
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】						
自治会、紀北町						
【実施箇所及び箇所数】						
15箇所 (12自治会)						
長島地区8箇所 (東井ノ島、志子、志子奥、久野、出垣内、三浦、三戸、片上) 103本						
海山地区7箇所 (中里、渡利、上里、船津、前柱、矢口浦、便ノ山) 49本						
【事業量】						
15箇所 152本						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
【事業実施により期待される効果】						
人家背後の急傾斜地の危険木を伐採したことにより、集中豪雨や強風時の倒木による危険性を未然に回避し、地域住民の生活環境が向上し、安全、安心が確保され、事業を受けることによって住民の森林整備に対する意識の向上が見込める。						
【効果を発揮させるための工夫・取組】						
実施した自治会に回覧板等により周知する						
【新たな対策・視点及び改善点】						
伐採対象を山林に加え「保安林」も対象にすることでより要望に対応が可能となるため令和4年に向けて町要綱の改正を準備中						

4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	危険木伐採事業				
事業費	4,658,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,658,900		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	9/10以内	1申請につき1年度50万円の上限	
委託事業	紀北町			

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請書の提出と早期対応の必要があるかを添付書類にて判断。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	12自治会、住宅、道路、集会所等
期待する波及効果	隣接する人家等の安全性の確保

【公的関与の必要性】

個人での危険木の伐採には手間も費用もかかり負担が大きいことから伐採が遅れてしまうため、補助によって早期に伐採することが出来る。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町の補助金交付要綱により転用や目的外使用について制限はかけていない。自治会が森林所有者から事業実施の同意を得た上で森林内での必要最低限の危険木伐採を行う

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャン	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したこ

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

暮らしに身近な森林づくりの重要性を再認識し、税を活用する事業であることを自治会（地区住民）で議論していただくために、自治会としての要望書の提出を事前に義務付けている。

事業実施により森林所有者はもとより、各地区の住民が森林管理の必要性を再認識し、森林整備の意識醸成につながった。また各自治会からは、人家裏山林の状況を再度確認した上で事業に取り組みたいと聞いている

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7 の (1) . 写真



写真1
三浦区【実施前】



写真2
三浦区【実施後】



写真3
東井ノ島区 【実施前】



写真4
東井ノ島区 【実施後】



写真5



写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
3	集落周辺 (里山) 整備事業					
事業費	73,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			73,600			

1. 事業の目的						
<p>当地域は、沿岸部に人家が密集し、背後に急傾斜地を有する人家が多く、近い将来想定される東南海地震による津波の襲来が心配される。また、近年人家周辺山林に人が入ることが少なくなり、野生動物の隠れ場になっているケースも多い。</p> <p>このような集落周辺等の荒廃が進む森林を住民自らが整備し、森林の持つ多面的な機能を活用し、安全安心・快適な生活環境を創出していく。</p>						
2. 事業実績概要						
【事業内容】						
集落周辺等の荒廃森林や登山道において、風倒木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、歩道の作設、土留めなどの森林整備活動に対して補助する。						
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】						
地域住民で組織する団体 (ボランティア組織)						
【実施個所及び箇所数】						
2箇所 (1 団体)、箇所名：大台ヶ原尾鷲道、松浦武四郎の道 木津道 団体名：NTRC						
【事業量】						
登山道整備						
大台ヶ原尾鷲道 11,100m 松浦武四郎の道 木津道 700m 面積 計1.76ha						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
【事業実施により期待される効果】						
不要な萌芽を除去し、散策路や森林整備作業時の安全、安心が期待できる。また、登山道が整備され、登山者の安全、安心が図られる事で地域住民等利用者の森林への関心を高める効果に期待できる。						
【効果を発揮させるための工夫・取組】						
NTRCに対し、本事業の取り組みを継続的に実施するよう求めた。						
【新たな対策・視点及び改善点】						
団体にホームページ、ブログ、SNS等で県民税活用の積極的なPRを求める。						

4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	集落周辺（里山）整備事業				
事業費	73,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			73,600		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	その他	1ヘクタール当たり16万円を上限とする。補助金の額は1団体、年度当たり20万円を上限と	3名以上で組織する団体が自主的に取り組む、集落周辺の森林整備等に関する保全活動及び森林環境整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費等は除く。）

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

荒廃した里山等の再生並びに集落周辺の登山道等の整備など、暮らしに関わりの深い森林づくりが地域住民の自主的な取り組みにより継続的に実施されることを期待するとともに、最小限の費用で整備することが可能

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	登山者、森林所有者
期待する波及効果	森林の適切な整備と、登山者の安全確保

【公的関与の必要性】

紀北町は「自然と共生の町」を宣言しており、豊かな自然のある大台ヶ原への登山道の整備であることから、税を活用した登山者の安全確保は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

登山道については以前から登山者や森林所有者が利用しており、今後も同様の活用となると考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

登山者からは、登山道の環境が整備がされ、安全性が増したという意見をいただいている。

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺(里山)整備事業
-----	--------------

7の(1).写真



写真1

令和4年12月26日 木津道整備



写真2

令和5年3月14日 木津道整備



写真3

令和4年11月14日 尾鷲道整備



写真4

令和4年11月14日 尾鷲道整備



写真5

写真5



写真6

写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
4	森林環境教育活動支援事業					
事業費	359,416 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			359,416			

1. 事業の目的						
環境林や公有林、学校林等を活用し、森林環境教育活動及び森林・林業作業体験活動、木育活動を実施し、次代を担う児童や生徒、地域住民に対して、森林の持つ様々な公益的機能や役割、森林環境に関する正しい知識の提供と理解の促進を図る機会を創出し、森林や林業に理解の深い人材の育成を目的とする。						
2. 事業実績概要						
【事業内容】						
森林環境教育活動及び森林・林業作業体験活動では、森林教育として環境学習、森林自然観察会等、植樹、下刈り、枝打ち、及び間伐等の林業作業体験並びに炭焼き体験等や、木のおもちゃ作り等、木の実や木の葉などの森林の恵みを生かしたリース作り等、県産材を使用した身近な製品 (箸、コースター、ストラップ作り等) つくり等の活動を行う。						
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】						
町						
【実施個所及び箇所数】						
町主体：相賀小学校4年生30名、3校合同 (船津小学校、上里小学校、矢口小学校) 3~6年生18名 団体主体：上里こども会6年生9名						
【事業量】						
町主体：森林組合おわせによる尾鷲ヒノキ林業に関する座学と山林での間伐体験を上記4校で実施 団体主体：林業に関する講和、尾鷲ヒノキを使ったコースター・キーホルダー作り						
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】						
【事業実施により期待される効果】						
地域の林業についてを座学で学びその後、現地で実際に森林整備体験を行うことで森林環境の重要性への理解を深める事が期待できる。						
【効果を発揮させるための工夫・取組】						
本事業に向けて学校側であらかじめ環境学習を行っているところもあったため、児童らはどれくらいの学習を受けているのかを事前に確認打ち合わせることで学校の授業では得られない部分をより深く学ぶ森林への知識や興味を引き出すことが期待できる						
【新たな対策・視点及び改善点】						
事前打ち合わせ等であらかじめ質問や意見等を募り森林環境や林業に対する児童らの要望も取り入れつつ実施した。						

4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
4	森林環境教育活動支援事業				
事業費	359,416 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			359,416		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
その他	活動団体	10/10以内	補助の場合1学校当たり20万円を上限	学校主体の場合は補助事業、町主体の場合は直営

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

校長会により本事業の呼びかけを行い希望のあった学校で実施。町主体の事業に講師として尾鷲ヒノキ林業に詳しい森林組合おわせ職員を選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加児童、生徒 小学生48人
期待する波及効果	林業に対する正しい知識の習得、職業としての林業従事者への興味

【公的関与の必要性】

現地での森林整備体験に町有林を活用可能。教育委員会及び学校との連携、調整が容易。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する
啓発物品配布	実施中	実施主体の団体等による情報発信（紹介動画等の案内）を通じて周知を図る
広報誌掲載	実施後	事業内容を掲載して町民に周知を図る
のぼり設置	実施中	実施箇所に設置し、町民に周知を図る

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

参加児童から感想の聞き取り時に、将来は林業の仕事に就きたいとの感想を得られた。

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育活動支援事業
-----	--------------

7 の (1) . 写真



写真1

環境教育 補助事業 3校合同 間伐体験中



写真2

環境教育 補助事業 3校合同 伐倒見学



写真3

環境教育 補助事業 相賀小学校 事前座学



写真4

環境教育 補助事業 相賀小学校 間伐体験中

写真5

写真6

写真5

写真6

熊野市

令和 4 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報 (平成30年度版三重県市町要覧による)

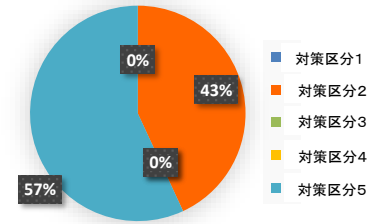
市町名	熊野市	三重県
人口 (人)	16,113	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	9.9%	12.4%
森林面積 (ha)	32,935.18	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	29,621.62	348,833.49
森林率 (%)	88.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	9.8	10.1

* 1 : 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2 : 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。)

* 3 : 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和 4 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	小・中学校危険木伐採・枝切事業	10,252,000	10,252,000		10,252,000				
2	5	森とふれあいの場拠点づくり事業	13,538,480	13,538,480					13,538,480	
				0						
				0						
計			23,790,480	23,790,480	0	10,252,000	0	0	13,538,480	0

3. 令和 3 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	4.11ha	4,404,400	4,404,400	災害緩衝林実施個所周辺の調整伐
森林再生力強化対策事業	1,233m	889,623	889,623	獣害防護柵設置
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

<p>事業方針</p> <p>熊野市の地勢は内陸に向かうに従って紀伊山地の急峻な山地となり、森林面積は総面積の88%を占めている。また、民有林面積は29,628haと全森林の約90%を占め、うち人工林は22,921haと県下でも有数の林業地域である。しかしながら、林業を取り巻く環境は木材の長期的な低迷に加え、担い手の減少、林業従事者の高齢化、生産基盤の立ち遅れ等が極めて厳しく、このまま推移すれば森林の整備水準の低下等により公益的機能が十分に発揮されないなど、住民生活への影響が懸念されている。そのため、「災害に強い森林づくりと環境林の保全」という熊野市森林・林業ビジョンの基本方針の1つに沿って、防災機能の強化による安全・安心の実現、里山林整備と奥地天然林や渓畔林の保全、身近な森林の恵みを活用する環境づくりなど、森林が与えてくれるさまざまな恩恵を評価した上で、森林と積極的に付き合っていく取組を展開していく。令和4年度については、多くの利用者が継続して利用している森林公園に対し、樹木育成のための下刈りや支障木伐採を行うとともに、地元特有のクマノザクラを新植・保育することで魅力を向上させ、多くの利用者・来訪者に緑を身近に感じてもらう環境づくりに取り組んだ。また、市内の小・中学校の校庭において、倒木のおそれがある危険木を伐採することにより、児童生徒の安全・安心の確保に取り組んだ。</p>
<p>事業実施により期待される効果</p> <p>市が公益性の判断で実施する事業には特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に効果を及ぼすものが多く、県民税事業を行うことにより、安全・安心に地元の森林や自然とふれあう環境を整備することができ、市民だけでなく市への来訪者にも恩恵を受けてもらう。</p>
<p>情報発信への取組</p> <p>事業実施の際にはのぼりや看板によって県民税のPRを行っているが、広い市域の中であって事業箇所が点在しており、利用者の目にふれる機会が少ないことから、市のホームページに事業の計画と実績の紹介へ市の玄関口であるJR熊野市駅や市街地に近い市文化交流センターにおいて例年パネル展示を行っている。</p>

第 11 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 4 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	9,233	9,233
2	⑦ その他 (森林整備)	113,769	113,769
3	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	961	961
4	⑬ 木造公共建築物の整備等	4,465	4,465
5	⑯ その他 (木材・普及啓発関係)	8,800	8,800
6	⑰ 基金積立 (森林整備等)	50	50
7			
8			
9			
10			
	合計	137,278	137,278

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
1	小・中学校危険木伐採・枝切事業				
事業費	10,252,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			10,252,000		

1. 事業の目的

倒木のおそれがある危険木を除去することにより、児童・生徒をはじめとする校庭等の利用者が今後も安全・安心・快適に利用できる環境づくりを行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】

倒木のおそれがある学校敷地内の危険木の伐採・枝切を行った。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

熊野市

【実施個所及び箇所数】

3箇所 (有馬小学校、矢ノ川小学校、木本中学校)

【事業量】

有馬小学校9本、矢ノ川小学校21本、木本中学校39本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

校庭の利用や隣接道路の通行の際の安全・安心の確保され、樹木に囲まれた施設の快適利用が維持される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

児童・生徒のみならず、ゲートボール愛好者などの地域団体も校庭等を利用していることから、学校を核とした地域活動が今後も維持される。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまでに十分に手入れがされず、危険な状態で放置されていたため、当事業により適切な対応を行うことによって安全な環境を整えることができる。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
1	小・中学校危険木伐採・枝切事業				
事業費	10,252,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			10,252,000		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
委託事業	建設業者	補助事業ではない			
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
高所作業車の取扱いに秀で、市街地でも安全に作業を実施できる能力と実績のある事業者に委託を行った。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	有馬小学校…児童162人及び地域住民3,861人、 矢ノ川小学校…校庭利用者100人及び地域住民90人、 木本中学校…生徒132人及び地域住民3,036人				
期待する波及効果	周辺通行者や校庭等を利用する地域団体等への波及効果も期待できる				
【公的関与の必要性】					
対象となる施設は市が管理する施設であり、これらを適切な状態に維持して利用者に活動の場として提供することが市の方針である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
施工看板に掲示	実施中				
のぼり設置	実施中				
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行う。			
HP掲載	実施前・後	年度当初に予定事業を掲載し、事業結果は翌年度当初に公表する。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
「子どもたちの安全が確保され、安心して学校で学ぶ環境が整備された」「危険な木は伐採してほしいが、木に親しむために緑がある環境を維持してほしい」「クマノザクラを植えてほしい」などの声が聞かれた。					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	小・中学校危険木伐採・枝切事業
-----	-----------------

7 の (1) . 写真



写真1

危険木伐採 (有馬小学校) 施工前



写真2

危険木伐採 (有馬小学校) 施工後



写真3

危険木伐採 (矢ノ川小学校) 施工前



写真4

危険木伐採 (矢ノ川小学校) 施工後



写真5

危険木伐採 (木本中学校) 施工前



写真6

危険木伐採 (木本中学校) 施工後

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分

市町名 熊野市

事業名 情報発信(各事業共通)

7. 写真



写真1
パネル展示①(熊野市文化交流センター)



写真2
パネル展示②(熊野市文化交流センター)



写真3
HP掲載①



写真4
HP掲載②(前年度(R3)事業実績紹介部分)

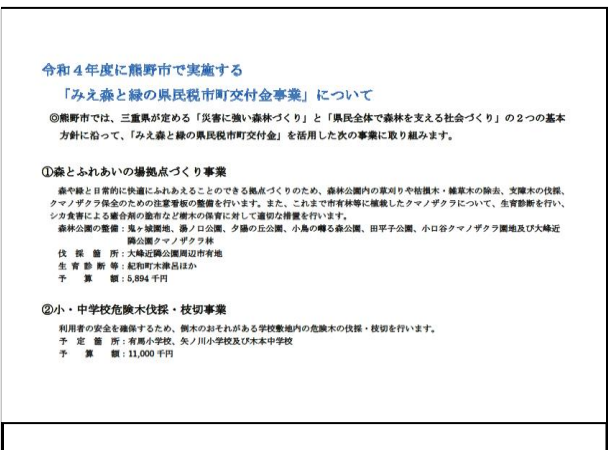


写真5
HP掲載③(R4事業紹介部分)



写真6

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事業費	13,538,480 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,642,000	6,896,480	

1. 事業の目的					
市民が身近に水や緑を感じ、地域の歴史や自然に親しむことのできる森林公園の整備を行うことで、より市民に利用され、日常的に森林環境学習や木育の拠点として水や緑に親しむ箇所を創出する。また、令和 2 年 11 月に熊野市の花木に指定した、この地域固有の種であるクマノザクラにより新たな魅力付けを行い、より緑や樹木に関心を高める。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】					
森と緑と日常的に快適にふれあえることのできる拠点づくりのため、歩道の修繕や枯損木・雑草木の除去、クマノザクラの植栽と生育調査、保全を呼びかける標識の設置を行った。					
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】					
熊野市					
【実施箇所及び箇所数】					
下刈 7 箇所 (鬼ヶ城園地、小鳥の囀る森公園、湯ノ口公園、夕陽の丘公園、田平子公園、小口谷クマノザクラ園地、大峰近隣公園)、支障木伐採 1 箇所 (大峰近隣公園)、生育診断 11 箇所 (紀和町木津呂ほか)、標識 6 箇所 (紀和町長尾ほか)、クマノザクラ植栽 (支障木伐採、地拵え等を含む。) 1 箇所 (大峰近隣公園)					
【事業量】					
下刈等 13.83ha、伐採面積 150㎡、生育診断等 642 本、標識 6 本 (クマノザクラ)、植栽 70 本 (クマノザクラ)					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】					
森とのふれあいの場を整備することで日頃から森林にふれあうことのできる環境を提供できる。同時に、それぞれの森林公園等を利用する協力団体が実施する森林環境学習等を通じて、より市民が森林にふれあうという相乗効果を図ることができる。					
【効果を発揮させるための工夫・取組】					
整備を実施した施設に対しては、周辺の宿泊施設での館内放送・マップ配布により利用を促進している。また、トレイルランニングレースやボルダリング大会などのイベント時の利用を行い、施設のPRを行っている。					
【新たな対策・視点及び改善点】					
これまで適切な整備を行うことで快適な利用が可能になっていると市民から好評を得ているため、今後も継続して整備を行う必要がある。					

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事業費	13,538,480 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,642,000	6,896,480	
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
委託事業	森林組合	補助事業ではない			
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
本事業で実施する山林内での下刈や支障木伐採には専門的な知識と技術が必要であるため、類似業務の実績が豊富な森林組合に委託するのが適当であると判断したため。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	年間予想利用者38,100人（鬼ヶ城園地30,000人、小鳥の囀る森公園300人、湯ノ口公園7,000人、夕陽の丘公園300人、田平子公園300人、小口谷クマノザクラ園地100人、大峰近隣公園100人）				
期待する波及効果	周辺を利用する観光客・イベント参加者への波及効果も期待できる				
【公的関与の必要性】					
対象となる施設は市が管理する施設であり、これらを整備してさらなる利用者の増加を図り、森林のもたらす恩恵を利用者に享受してもらうことが市の方針である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
施工看板に掲示	実施中				
のぼり設置	実施中				
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行う。			
HP掲載	実施前・後	年度当初に予定事業を掲載し、事業結果は翌年度当初に公表する。			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7 の (1) . 写真



写真1

下刈り (鬼ヶ城園地) 施工前



写真2

下刈り (鬼ヶ城園地) 施工後



写真3

下刈り (小口谷クマノザクラ園地) 施工前



写真4

下刈り (小口谷クマノザクラ園地) 施工後



写真5

下刈り (小鳥の囀る森公園) 施工前



写真6

下刈り (小鳥の囀る森公園) 施工後

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7 の (1) . 写真



写真1

下刈り (田平子公園) 施工前



写真2

下刈り (田平子公園) 施工後



写真3

下刈り (夕陽の丘公園) 施工前



写真4

下刈り (夕陽の丘公園) 施工後



写真5

下刈り・歩道草刈り (湯ノ口公園) 施工前



写真6

下刈り・歩道草刈り (湯ノ口公園) 施工後

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

下刈り施工中 (鬼ヶ城園地)



写真2

下刈り施工中 (小口谷クマノザクラ園地)



写真3

下刈り施工中 (小鳥の囀る森公園)



写真4

下刈り施工中 (田平子公園)



写真5

下刈り施工中 (夕陽の丘公園)

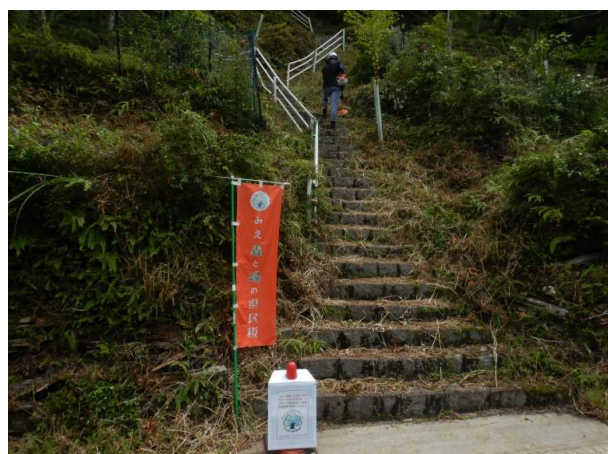


写真6

下刈り・歩道草刈り施工中 (湯ノ口公園)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7 の (1) . 写真



写真1

クマノザクラ生育診断 (シカ食害防護作業中)



写真2

クマノザクラ生育診断 (シカ食害防護処理後)



写真3

クマノザクラ保全標識① (長尾美春桜)



写真4

クマノザクラ保全標識② (大峰桜)



写真5

クマノザクラ保全標識③ (瀬流桜)



写真6

クマノザクラ保全標識④ (板屋九郎兵衛桜)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7 の (1) . 写真



写真1

クマノザクラ保全標識⑤ (円通庵桜)



写真2

クマノザクラ保全標識⑥ (丸山千枚田桜)



写真3

クマノザクラ保全標識 (拡大)



写真4

クマノザクラ保全標識 (県民税 P R 部分拡大)



写真5

クマノザクラ植栽 (支障木伐採) 施工前



写真6

クマノザクラ植栽 (支障木伐採) 施工後

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

クマノザクラ植栽①



写真2

クマノザクラ植栽②



写真3

クマノザクラ植栽③



写真4

クマノザクラ植栽④

写真5

写真6

写真5

写真6

御浜町

令和 4 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報 (平成30年度版三重県市町要覧による)

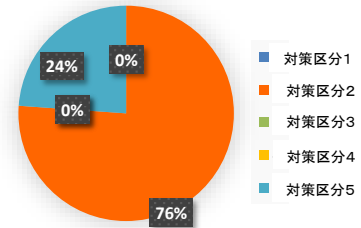
市町名	御浜町	三重県
人口 (人)	8,800	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	11.0%	12.4%
森林面積 (ha)	5,691.76	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	5,598.49	348,833.49
森林率 (%)	65.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	20.4	10.1

* 1 : 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2 : 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。)

* 3 : 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和 4 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	学校危険木伐採事業	5,747,500	5,747,500		5,747,500				
2	2	町道危険木伐採事業	970,860	970,860		970,860				
3	5	森林公園等環境整備事業	2,106,500	2,106,500					2,106,500	
				0						
				0						
				0						
				0						
計			8,824,860	8,824,860	0	6,718,360	0	0	2,106,500	0

3. 令和 4 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
<p>本町は、県南部に位置し、東部は雄大な太平洋熊野灘に面した海岸線沿いには、比較的平坦な低地が広がりますが、内陸部では山岳地帯を形成しており、人工林率は71%と県平均の62%を上回っており、かつては積極的に植林がされてきた地域です。しかし林業経営の悪化などから森林への関心は薄れ、適切な整備がされず森林が持つ公益的機能が十分に発揮している状態ではない森林も見受けられます。</p> <p>このことを踏まえ、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、小中学校内や町道沿線の危険木の伐採や枝下ろしを行うことで町民の生活環境等の保全や向上を図り、「災害に強い森林づくり」を進めます。また、不特定多数の人が集まる町内の地元産品販売所等への木製品配置を支援するとともに、森林公園等のフィールド整備を行うことで住民が木や緑とふれあう環境を身近なものにし、木の良さや木を使うことが森林整備につながることの重要性を広くPRしていく「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めます。</p>
事業実施により期待される効果
<p>町民や来訪者に利用される遊歩道及び公園を整備することで、多くの人が森林や緑と触れ合う機会をつくることのできた。寺谷公園を遠足先とする小学校もあり、また家族の利用者も多いため、地域の子供たちが森林にふれる環境をつくることのできた。</p>
情報発信への取組
<p>町民や施設利用者へ県民税を活用して整備が行われていることを周知するため、作業期間中に県民税ののぼり等の設置、庁舎内でのパネル掲示を行った。</p>

第 11 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 4 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	2,587	2,587
2	⑦ その他 (森林整備)	8,696	8,696
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	11,283	11,283

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番号	事業名					
1	学校危険木伐採事業					
事業費	5,747,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			5,747,500			

1. 事業の目的
<p>学校内の危険木の伐採、枝下ろし等を行うことで児童生徒の安全と学校の環境美化に努めるとともに、木や森について学ぶ森林教育を通じて森林を支える社会づくりを目指す。</p>
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>町内小中学校 (4 校) の伐採、枝下ろし等を行うとともに、木や森について学ぶ森林教育を行った。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>御浜町</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>4 箇所 (御浜小、御浜中、神志山小、阿田和小)</p> <p>【事業量】</p> <p>危険木伐採</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>学校内の危険木を整理することで児童生徒の安全安心と環境美化を高めるとともに、各学校が独自に森林教育を開催し、森づくりの重要性を学ぶ。森林教育や木を使った活動を行うことにより、自然の美しさや面白さを改めて実感してもらう。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>学校危険木の伐採を契機として、身近な木や森林について学習する機会を作り、各学校様々な取り組みを実施した。町広報等のもとより、テレビや新聞等マスコミで取り組みをとりあげてもらい、直接学習した児童生徒だけでなく、多くの町民に森林教育の必要性を訴えることができた。末尾の資料参照。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>これまで危険木の伐採を行っていなかったため、学校危険木の伐採を契機として、身近な木や森林について学習する機会を作る。</p>

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
1	学校危険木伐採事業				
事業費	5,747,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,747,500		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	該当なし	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

過去の実績等を勘案し、森林組合に見積合わせを行い委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	児童、生徒及び教員 605 人
期待する波及効果	危険木整理により、児童生徒の安全が高まった。

【公的関与の必要性】

公的機関のため必要

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

転用や目的外使用の想定はしていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	事業実施結果のパネル展示を行い、住民に森林づくりの重要性を周知
ポスター掲示	実施後	事業箇所にポスター等を掲示し、税を活用していることを周知
TV（行政チャンネル等）	実施後	森林学習に係る授業の様子をNHKローカルニュース、ローカル新聞で報道

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	学校危険木伐採事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

神志山小学校



写真2

神志山小学校



写真3

御浜小学校



写真4

御浜小学校 電柱横の支障木を伐採



写真5

阿田和小学校



写真6

御浜中学校

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	学校危険木伐採事業
-----	-----------

7 の (2) . その他資料

・阿田和小学校 一学期

5年生「木のアクセサリ作り」を実施。校庭で剪定された木を拾ってきて観察した。

また、拾ってきた木の種類を調べ、木を知るきっかけづくりとなった。

その後、木を自分たちで切って、穴を空けて紐を通して「木のアクセサリ」を完成させた。



「にせ落ち葉作り」を実施。

色んな落ち葉を集めてきて落ち葉を観察して、にせ落ち葉を作りクイズを行った。

「木を描く (スケッチ)」を実施。

校庭で拾ってきた木の枝をよく観察し書いた。

「木を描く (水墨画)」を実施。

木からどんな声が聞こえてくるだろう? をテーマに下書きができたタイミングで色をつけて木に命を吹き込んでみよう伝え、色塗りを行った。描き上げた後には一人一人が自分の作品に題名をつけて完成となった。

【成果】

今回の活動を通して色々な角度から樹木とつながることができた。木と関わるのが楽しいと実感できる活動になった。子供一人一人が観た木、感じ取った様子を表現することができ、どれも魅力的な作品に仕上がった。また、木の気持ちになってつけられた題名が多くみられ、愛着を感じている様子が伺える。



・神志山小学校 5月2日

中学年「ネイチャーラリー」を実施。

ゲームやクイズを通して、自然の美しさや面白さに気づき、自然や環境への理解を深める。

【内容】

学校林や運動場など各ポイントを回って、班で協力しながら、草木など自然なものを利用したゲームやクイズ、工作などを行い、親睦を深めるとともに、自然や環境への理解を深めた。



自然に関するクイズを答える。例・ノブキの幹の太さは何m? ユキヤナギを探す
他に自然の中に目立たないように置かれた人工物を探すゲーム。

鳥の鳴き声に似た音を出す道具作り。

校舎内のグラウンドに縦割り班で行った。

【成果】

学校にある樹木や植物にネイチャーラリーを通して触れることで、自然の美しさや面白さをあらためて感じる事ができた。

たくさんの樹木や植物に触れることで、自然や環境により興味を持つことができるようになった。

伐採されたクスノキの枝やドングリを使った飾り物を作成するなかで、人工物とは違った自然のものを使った作品の良さを味わうことができた。



・御浜小学校 11月4日

・5年生34名「セーザイゲーム」・森林の働きや林業の学習 1月16日

【内容】

熊野林星会主催。セーザイゲームは本物の木を使用したゲームで、暮らしに欠かせない木材に触れ、木のことを遊びながら学べる木育ゲーム。

ゲーム後に森林に関する講義がなされた。

林星会の方々の仕事を紹介して頂き、林業に関わる仕事がいいろいろあり、自然災害から地域を守り、環境を守っていることや、仕事に対する努力や工夫を学んだ。

【成果】

森林の働きや林業の果たす役割を知り、社会科の学習で、さらに詳しく調べていこうという意欲を高めた。

「マイはしを持つことが環境を守ることだ」という認識が誤ったものであることに気づき、山を守るためには、木を伐採し、植樹していくという山の循環が必要であることを学んだ。

御浜中学校

各学年で取り組み 二学期

1年生技術 木の名前を覚えたり、世界一、日本一の木を調べた。

地元の杉を使った木製製品の制作。

2年生技術 地元のヒノキを使ったマイ箸づくり

3年生理科 生物のつながり 食物連鎖における植物（森林）の役割を学習

3年生技術 地元の杉を使った三線づくり。最後の文化祭で演奏。切った竹を使った

全校総合 みかんの木を使ったキーホルダー作り。



地元の杉を使った三線づくり



地元の杉を使ったマイ箸づくり



みかんの木ホルダー

第 1 1 号様式 (その 2)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番号	事業名					
2	町道危険木伐採事業					
事業費	970,860 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			970,860			

1. 事業の目的

町道沿線の台風等の影響により倒木等の恐れのある危険木を伐採することにより、町道の通行止めや道路利用者への落下を未然に防止し、道路利用者の安全安心を確保することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

町道引作山地線及び町道西原阪本線沿いの危険木を伐採し、安全な道路運航に努める。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

御浜町

【実施箇所及び箇所数】

2 路線 (町道引作山地線、町道西原阪本線)

【事業量】

危険木伐採 (400m)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

町道沿いの危険木を伐採することで、地区住民をはじめとする道路利用者の安全安心が確保される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

地域に密接している町道沿いの危険木を伐採することによって地区住民の安全安心が確保される。道路の維持管理では出来ない山林の伐採を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまでも町民から生活道路の危険木除去の要望があったため、中山間部に位置する主要町道の危険木を集中的に伐採・撤去した。(集中的に実施することで、高所作業車の借り上げ経費の削減を図る)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
2	町道危険木伐採事業				
事業費	970,860 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			970,860		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない	該当なし	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

過去の実績等を勘案し、建設業者3社以上で見積合わせを行い委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	地区住民
期待する波及効果	道路利用者の安心安全が確保される。

【公的関与の必要性】

町道であるため必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

転用、目的外使用は想定していない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中	看板にロゴマーク等を表示し、税を活用していることを周知する。
のぼり設置	実施中	県民税ののぼりを設置し、税を活用していることを周知する。
パネル展示	実施後	事業実施結果のパネル展示を行い、住民に森林づくりの重要性を周知

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	町道危険木伐採事業
-----	-----------

7 の (1) . 写真

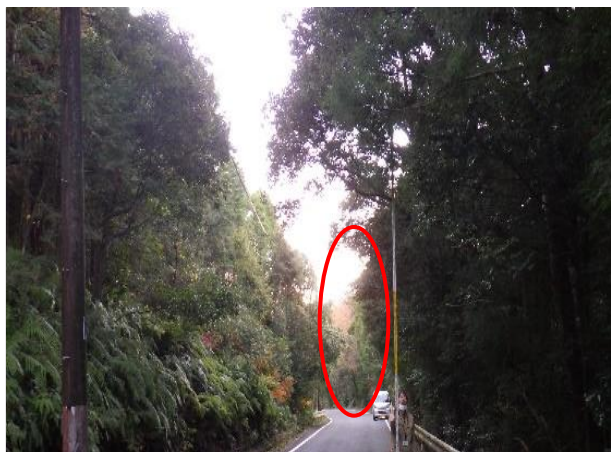


写真1
危険木伐採前 町道引作山地線



写真2
危険木伐採後 町道引作山地線



写真3
危険木伐採前 町道西原阪本線



写真4
危険木伐採後 町道西原阪本線



写真5

写真5



写真6

写真6

第 1 1 号様式 (その 2)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	森林公園等環境整備事業				
事業費	2,106,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			897,640	1,208,860	

1. 事業の目的

健康づくりの一環として山歩きや森林浴など、森林とのふれあいにより健康づくりを行おうとする機運が高まってきている。御浜町には遊歩道を有する小高い山とそれに隣接する公園があり、住民が緑にふれられる場として親しまれている。登山道、公園及び東屋周辺を整備することで、住民が森林や緑とふれあう環境を身近なものにする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

浅間山登山道、寺谷公園及び川瀬東屋周辺の除草と危険木伐採

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】

御浜町

【実施個所及び箇所数】

4箇所 (浅間山、寺谷公園、川瀬東屋周辺)

【事業量】

下刈、危険木伐採・剪定

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

多くの町民や来訪者に利用される登山道及び公園を整備することで、多くの人々が森林や緑とふれあうことができる。寺谷公園は地域の小学校の遠足先であり、また家族の利用者も多いため、地域の子供たちが森林にふれあう環境をより身近なものにできる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

森林にふれあう環境をより身近なものにするため、遊歩道や遊歩道の拠点となる公園内を重点的に整備を行った。整備された公園で小学生3・4年生70人が森林を使ったゲーム「クッブ」を体験した。

【新たな対策・視点及び改善点】

小学校の遠足等に併せてクッブ大会を実施し、大会後は三重県職員による森林に関するミニ授業も行われた。また、町広報等のもとより、テレビや新聞等マスコミで取り組みをとりあげてもらい、直接学習した児童生徒だけでなく、多くの町民に森林教育の必要性を訴えることができた。末尾の資料参照。

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	森林公園等環境整備事業				
事業費	2,106,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			897,640	1,208,860	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	該当なし	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
過去の実績等を勘案し、森林組合等 3 社以上で見積合わせを行い委託した。				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	施設年間利用者数約9000人			
期待する波及効果	小学校の遠足等により子供たちが緑にふれあうことができる。			
【公的関与の必要性】				
町営の森林公園及び散策路の整備である。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
町営施設であり、転用や目録外使用の想定はしていない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
施工看板に掲示	実施前・中	利用者に対し税を活用していることを周知する。		
のぼり設置	実施中	利用者に対し税を活用していることを周知する。		
その他	実施後	遠足のために利用する小学生児童に野外授業を実施		
パネル展示	実施後	事業実施結果のパネル展示を行い、住民に整備の重要性を周知		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境整備事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

川瀬東屋



写真2

川瀬東屋



写真3

寺谷総合公園 (作業中)



写真4

寺谷総合公園 (完成)



写真5

浅間山遊歩道



写真6

川瀬東屋周辺

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分		市町名	新規・継続の別
------	--	-----	---------

事業名	
-----	--

7 の (2) . その他資料



御浜小学校の遠足に合わせて
カップ大会を実施した。



・大会後に県職員による
森林の授業が行われた。

紀宝町

令和 4 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報: 「三重県市町要覧 (令和元年度版)」、「平成30年度版森林・林業統計」による

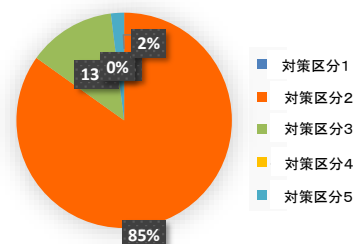
市町名	紀宝町	三重県
人口 (人)	10,588	1,782,190
年少人口割合 (%) * 1	11.8%	12.4%
森林面積 (ha)	6,073.00	372,352.55
民有林面積 (ha) * 2	6,027.34	348,833.49
森林率 (%)	76.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	7.6	10.1

* 1: 全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2: 国有林以外の森林 (個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。)

* 3: 都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和 4 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠・加算枠) 事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額 (円) (当年度交付金額 + 基金活用額)						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	生活環境林整備事業	13,323,090	5,799,090		5,799,090				
2	3	森と緑の環境教育事業	900,000	900,000			900,000			
3	5	クマノザクラ整備事業	135,520	135,520					135,520	
4		みえ森と緑の県民税市町交付金積立金	1,109,390	1,109,390						1,109,390
				0						
				0						
計			15,468,000	7,944,000	0	5,799,090	900,000	0	135,520	1,109,390

3. 令和 4 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (連携枠) (防災枠) 事業実績

事業区分	事業量 (ha)	事業費 (円)	内交付金充当額 (円)	事業概要	備考
流域防災機能強化対策事業	11.85	7,000,400	7,000,000	間伐事業	産業: 林業振興費: 委託料 : みえ森と緑の県民税市町交付金事業 業務委託料

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
<p>紀宝町は古くから熊野川を利用した木材の集散地として林業生産活動が活発であったこともあり、森林面積は紀宝町全体面積の76%を占めており、民有林における人工林面積4,731ha (人工林率78%) であるが、主伐期を迎えた森林が全体の82%に達しているものの林業の採算性の悪化などから森林への関心が薄れ、適正な管理がされない森林が増えてきており、今後これらの森林整備に向けた対応が必要である。</p> <p>その上で、森林環境譲与税を財源とした森林施策とのすみ分けを行いながら、荒廃した身近な里山の整備を進め、地域住民が安全に利用できる環境を整えるとともに、森林整備の必要性や森づくりへの理解を深めるための講演会やワークショップを開催するなど、町の森林施策を展開していくための財源としてみえ森と緑の県民税を活用していく。</p>
事業実施により期待される効果
<p>当町が公益性の判断のもと実施する事業においては、特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に影響を及ぼすものが多く、町民のみならず周辺の県民が恩恵を受けている。</p>
情報発信への取組
<p>各種集客イベントの際、県民税のPRをパネル展やチラシの配布によりおこなっている。登り旗の掲示も行った。その他、町ホームページ、役場庁舎内においてのパネル展の実施など。</p>

第 1 1 号様式 (その 1) (参考資料)

令和 4 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	⑦ その他 (森林整備)	16,545	16,545
2	⑬ 木造公共建築物の整備等	9,201	4,676
3	⑰ 基金積立 (森林整備等)	15,572	15,572
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	41,318	36,793

【記載要領】

ア. 事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備 (財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他 (森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他 (人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他 (木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立 (森林整備等)
⑱ 基金積立 (人材育成等)
⑲ 基金積立 (木材利用等)
⑳ 基金積立 (執行残額等)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	生活環境林整備事業					
事業費	13,323,090 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			5,799,090		7,524,000	

1. 事業の目的
公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地・竹林等の整備や危険木等の伐採または枝下ろしをすることにより、災害時等の倒木を未然に防ぎ、生活環境の向上を図る。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地・竹林等の整備や危険木等の伐採及び枝下ろしを行った。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>紀宝町、紀宝町鳥獣害防止総合対策協議会</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>6 地区 (大里、鮎田、浅里、井田、神内、鶴殿) 公共施設・生活道周辺緑地</p> <p>【事業量】</p> <p>6 地区 (約3ha) 支障木・危険木・竹木伐採及び緑地整備</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>該当箇所の整備により、公共施設や生活道周辺等の環境が良好になる。災害時等の倒木の危険性が減る。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>今後も森林所有者 (町・個人) により適切に管理する。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>住民からの要望が多く、事業効果が高いことから、継続して事業に取り組んでいる。</p>

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
1	生活環境林整備事業					
事業費	13,323,090 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			5,799,090		7,524,000	
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】						
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】						
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
	委託事業	建設業者 森林組合	補助事業ではない	該当なし		
	補助事業	紀宝町鳥獣害防止総合対策協議会	1/4以内		浅里地区竹林整備	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】						
紀宝町内において、伐採、下刈り等森林整備の実績がある業者及び町建設業組合に加盟している業者を選定した。						
【主な経費内訳】						
(別紙のとおり)						
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】						
【受益者及び、期待する波及効果】						
	受益者	6地区（大里、鮎田、浅里、井田、神内、鶴殿）の住民				
	期待する波及効果	公共施設や生活道周辺等の環境が良好になり、災害時等の倒木の危険性が減る。				
【公的関与の必要性】						
町有地の整備又は、個人所有の山林であるが、危険性が高く個人での対応が困難な場所の整備の為、町で整備を行った。						
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】						
森林所有者による管理のもと、危険木等の伐採・緑地整備であり、皆伐等を考えていない為、転用制限等を考えていない。						
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】						
【情報発信の内容】						
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）				
HP掲載	実施前・後					
施工看板に掲示	実施前・中	各施業箇所				
のぼり設置	実施中	各施業箇所				
パネル展示	実施後	役場庁舎内				
7. 写真及びその他資料						
別紙のとおり						
8. その他特記事項（受益者の反応等）						
生活道路の通行環境が良くなり、災害時等の危険が軽減され、緑地整備により、景観も良くなった。						

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町
------	-----------------	-----	-----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
支障木、危険木伐採	神内地区町有林支障木伐採 約500㎡	式	1.00	432,300	432,300	総務：財産管理費：委託料 ：町有林整備委託料
	井田地区町道支障木伐採 約150㎡	式	1.00	462,000	462,000	産業：林業振興費：委託料 ：みえ森と緑の県民税市町交付金 事業業務委託料
	大里地区危険木撤去 約60㎡	式	1.00	616,990	616,990	産業：林業振興費：委託料 ：みえ森と緑の県民税市町交付金 事業業務委託料
緑地整備	鮎田地区林道緑地整備 約9,000㎡	式	1.00	1,587,300	1,587,300	産業：林業振興費：委託料 ：みえ森と緑の県民税市町交付金 事業業務委託料
	大里地区(京ノ城跡) 緑地整備 約2,500㎡	式	1.00	891,000	891,000	教育：文化財保護費：委託料 ：京城跡調査環境整備委託料
	鶴殿地区公共施設周辺緑地整備 約15,000㎡	式	1.00	973,500	973,500	税務：公園費：委託料
竹林整備	浅里地区竹木伐採 約3,500㎡	式	1.00	8,360,000	8,360,000	産業：農地費：補助金：鳥獣害防 止総合対策協議会補助金 事業実施主体：紀宝町鳥獣害防 止総合対策協議会 事業費の内836千円が県民税、 7,524千円は獣害対策国補助金及び 特別交付税
				合計	13,323,090	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1).写真



写真1

神内地区町有林支障木伐採(施工前)



写真2

神内地区町有林支障木伐採(施工後)



写真3

井田地区町道支障木伐採(施工前)



写真4

井田地区町道支障木伐採(施工後)



写真5

大里地区危険木撤去(施工前)



写真6

大里地区危険木撤去(施工後)

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真7

鮎田地区林道緑地整備 (施工中 PRのぼり)



写真8

鵜殿地区公共施設周辺緑地整備 (施工中 PRのぼり)



写真9

大里地区(京ノ城跡) 緑地整備 (施工前)



写真10

大里地区(京ノ城跡) 緑地整備 (施工後)



写真11

浅里地区竹木伐採 (施工前)



写真12

浅里地区竹木伐採 (施工後)

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	森と緑の環境教育事業				
事業費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000		

1. 事業の目的					
<p>子どもから大人まで多くの町民の方々に、森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、身近にある紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことを目的とする。</p>					
2. 事業実績概要					
【事業内容】					
<p>森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことができるよう、著名な写真家による森の写真展と講演会、獣害研究者による獣害に強い里山づくり講座、その他、森とみどりのおはなし会&ワークショップ、「木」のつくるくらしEC上映会と江戸時代から伝わる日本人の自然観が学べる伝統の「もんきりあそび」のワークショップ等を開催した。</p>					
【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】					
紀宝町教育委員会					
【実施個所及び箇所数】					
該当なし					
【事業量】					
写真展 1回、講演会 2回、講座 1回、上映会 1回、ワークショップ 2回					
延べ参加人数：258名 (内訳：10月18～11月6日写真展131名、11月6日講演会29名、1月19～20日獣害に強い里山づくり講座62名、3月25日森とみどりのおはなし会&ワークショップ11名、3月26日上映会・ワークショップ25名)					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】					
<p>それぞれの講演会やワークショップ、写真展に参加された多くの方々に大変好評で、各イベント毎にアンケートを実施しており、そのアンケートの結果から、森や緑を守り育てることの大切さを理解していただけたことが伺える。森林の手入れや木製品の利用につながる事が期待できる。</p>					
【効果を発揮させるための工夫・取組】					
各イベントだけでなく森林等への関心を持っていただくよう、森林に対する想いを聞き取るアンケートを実施。					
【新たな対策・視点及び改善点】					
多くの方から継続の要望があり、各イベント毎のアンケート等を今後の講座内容の選定に反映させていく。					

令和 3 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
2	森と緑の環境教育事業				
事業費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
	①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
	委託事業	その他	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
事業目的に適した講師を選定。過去実績があるなど、様々なノウハウを持っている事業者を活用した。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
	受益者	各講演会等参加者 延べ258名			
	期待する波及効果	森林の手入れや木製品の利用へ繋がる。			
【公的関与の必要性】					
町民に森林の大切さを伝える貴重な機会であり、町（行政）が行うのが適当である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・後				
のぼり設置	実施中	各イベント会場			
チラシ等配布	実施中	参加者			
アンケート実施	実施中	参加者			
パネル展示	実施後	役場庁舎内			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
施設の管理者及び児童から木の香りやぬくもりの良さについての声が上がった。					

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町
------	-------------	-----	-----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
講師委託料 (講演会・ワークショップ等)		式	1.00			
以下内訳	講演会・写真展				350,000	
	獣害につよい里山づくり講座				200,000	
	森とみどりのおはなし会・ワークショップ				50,000	
	「木」のつくる暮らしEC上映会・ワークショップ				300,000	
			合計		900,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

写真展・講演会



写真2

災害につよい里山づくり講座



写真3

森とみどりのおはなし会・ワークショップ



写真4

「木」のつくるくらしEC上映会・ワークショップ

写真5

写真6

写真5

写真6

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

7の(2). その他資料 開催案内のチラシ

みえ森と緑の県民税市町交付金事業

EARTH SONG 響き合う森と緑と海

～ 写真家 寺沢孝毅さんに聞く～

このたび図書館では、写真家の寺沢孝毅さんをお迎えし、多様な命が紡ぎ合い、万物共生の「小さな地球」と呼ばれる北海道天売島(てうりとう)で撮影された写真をスライド上映しながら、生物の生命維持、希少動物の種の存続のためにも必要な森と緑の大切さについてお話いただきます。案内役は、天売島に何度も訪れたことのある子どもの本専門店メリーゴランド店主の増田喜昭さんです。寺沢さんの貴重な写真展もあります!ぜひどうぞご参加ください。

令和4年11月6日(日) 午後1時30分～3時



↑「BIRD ISLAND TEURI」
寺沢孝毅/著 Mark Brazil/英編
TERRA images(メディア・アール)発刊

大変貴重な機会です!ぜひお越しください

講師: 寺沢孝毅さん 参加無料

聞き手: 増田喜昭さん

対象: 小学生以上 どなたでも

申込: 申込先着順 30名(お電話でどうぞ)

受付開始: 10/1(土)～

※ただし、月曜、10/11(火)、11/3(祝・木)休館

場所: 紀宝町立図書館 2階
紀宝はぐくみの森 活性化ホール

寺沢孝毅さん写真展

【日時】 令和4年10月18日(火)～11月6日(日)
午前10時～午後5時(最終日は午後4時まで)
※毎週月曜日、10/27(木)、11/3(祝・木)休館


【会場】 紀宝町立図書館内とフリースペース


＜お申し込み・お問い合わせ先＞ よむよむ
紀宝はぐくみの森 紀宝町立図書館 TEL 0735-32-4646

※裏面もあります。どうぞご覧ください。>

講師プロフィール

寺沢 孝毅さんプロフィール(てらさわ たかき/自然写真家)
1960年北海道士別市生まれ。北海道教育大学を卒業し、22歳のとき、旭川より天売島へ移住。絶滅危惧種のウミガラスやケイマリの調査・保護を続けながら、天売島を「小さな地球」と見立てて人や自然環境を撮影する。同時に、極地から熱帯まで取材し、地球の素顔を伝える活動を続ける。画像と音を使った講演活動「Photo & Sound Live」を全国展開中。近者に『BIRD ISLAND TEURI』、『EARTH SONG 地球の絶景と守りたい生命』があるほか、児童書の著書多数。NHK「ワイルドライフ」、「ダーウィンが来た!」などの自然番組の撮影にも取り組む。





増田 喜昭さんプロフィール(ますだ よしあき/子どもの本専門店メリーゴランド店主)
1950年三重県四日市市生まれ。1976年子どもの本専門店「メリーゴランド」を開く。第一線で活躍する作家、画家を招き、子どもと子どもの本を考える「レクチャー」を月に一回開催。プロの絵本作家、童話作家の養成ワークショップ「絵本塾」、「童話塾」を主宰。次の時代の作家の出发点となっている。2007年に京都府を開店。

講演会終了後にサイン会あります。

みえ森と緑の県民税

森林には、きれいな水を貯える機能や地球温暖化の防止、県土の保全、遊しや健康増進など、私たちが健康で快適な生活を送るために欠かせない大切な働きがあります。しかし、山村地域の過疎化や林業の不振などにより、手入れが不足した荒廃森林が増えています。異常気象が増加していることも考え合わせると、自然災害の発生リスクが高まっていると考えられます。そこで県では、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、「みえ森と緑の県民税」を平成26年4月1日から導入しました。県と市町が、「2つの基本方針と5つの対策」に沿って、みえ森と緑の県民税を活用した取組を行います。

三重県公式サイト/三重の森林づくりHPより(一部抜粋)

みえ森と緑の県民税市町交付金事業

獣害研究家 雅ねえの 豊かな里山づくり講座

このたび図書館では、獣害対策でめざましい実績をあげられ、全国各地でひっぱりだこの雅ねえさんをお招きし、獣害に強い豊かな里山づくり講座を開催します。地域の課題解決に向けての実践的なヒント満載です。皆様のご参加をお待ちしております。

令和5年1月19日(木) 午後2時～3時30分

【日時】 1月20日(金) 午前10時～ 町内で現地実習

【講師】 雅ねえ(獣害研究家・島根県美郷町在住)

【場所】 紀宝はぐくみの森2階 活性化ホール

【対象】 関心のある方なら どなたでも

【定員】 申込先着順・約30名(図書館までお電話でどうぞ)

雅ねえプロフィール
1949年奈良県生まれ。愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了。京都大学博士(農学)。元農研機構近畿中国四国農業研究センター専門員。食と農の応援団員。著書に『これならできる獣害対策』、『女性がやれば必ず人進む獣害対策』など多数。NHKスペシャル「獣害を転じて福となす～雅ねえと中国山地の物語～」出演。



※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、マスクの着用と検温、消毒等にご協力をお願いします。また、今後の感染拡大状況により日程変更や中止の可能性があります。どうぞご了承ください。

＜お申し込み・お問い合わせ先＞ よむよむ
紀宝はぐくみの森 紀宝町立図書館 TEL 0735-32-4646

みえ森と緑の県民税市町交付金事業

木とみどりのおはなしが

このたび図書館では、みえ森と緑の県民税市町交付金事業として、子どもたちに森や緑の大切さをわかりやすく伝える「森とみどりのおはなし会」を開催します。絵本のよみかきや楽しいワークショップもあります。皆様のご参加をお待ちしております。

日時 3月25日(土) 午後1時30分～3時

対象 3歳以上どなたでも
※小学3年以下保護者同伴

講師 みずのかずこさん
(子育て支援まいまい主宰)

会場 紀宝はぐくみの森 2階活性化ホール



『木』(こどものとも絵本)
佐藤忠良/画
木島 始/文
福音館書店

＜お申し込み・お問い合わせ先＞ よむよむ
紀宝はぐくみの森 紀宝町立図書館 TEL 0735-32-4646

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

7の(2). その他資料	開催案内のチラシ
--------------	----------

回覧


みえ森と緑の県民税市町交付金事業

20世紀映像の百科事典
エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ上映会

「木」のつくる暮らし

第2次世界大戦後すぐのドイツで始まった、エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ(=ECフィルム)のプロジェクト。それは世界中の人の暮らしと生き物の生態を記録して、映像の百科事典をつくるという壮大な計画でした。あたりまえの「生」の姿の集積であるこの映像群は、時を経て今、私たちに何を伝えているのでしょうか？

今回は、たくさんの映像の中から「木」をめぐる映像を選び、世界中にかつてあった「木」をめぐる技術、生活文化の映像を皆さんと見たいと思います。森林の豊かな土地がである紀宝町の皆さんと一緒にこの映像を見ることができると楽しみにしております。(下中菜穂さんからのメッセージ)



令和5年3月26日(日)
午後2時～3時30分

講師：下中菜穂さん
 荘司 健さん

対象：小学生以上 どなたでも

申込：申込先着順・30名(電話可)

場所：紀宝はぐくみの森2階活性化ホール

参加無料

↑「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」より

エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ=ECフィルムとは？

1952年、ドイツ・国立科学映画研究所ではじまった映像の百科事典計画。民族学、生物学、技術科学の3つのジャンルからなり、数多くの研究者・カメラマンが世界各地に赴き、現在は失われた暮らしの技法や儀礼などの貴重な記録を含む、3000タイトル強の映像アーカイブを制作しました。現在約500タイトルがデジタル化され、日本国内向けに貸し出されています。


<資料申し込み お問い合わせ先> 0735-32-4646

紀宝はぐくみの森 紀宝町立図書館

<座席もありません。どうぞご覧ください。>

文様の中には「自然」がいっぱい！！

江戸の「もんきりあそび」を楽しもう



紙を折りたんで型紙のとおりに切る。そと開くと、手の中に美しい日本の形が舞い降ります。これが江戸時代の切り紙「もんきりあそび」です。「もんきり」は江戸時代、「家紋」を担ぐ職人の技術として始められ、遊びとしても楽しられました。「家紋」は家のしるしであるばかりでなく、その小さなかたちの中には、たくさんの歴史や物語、自然観や暮らしや考え、美学などがぎっしりつまっています。「もんきりあそび」とおして伝統的な「かたち」に親しみ、使い、楽しむことで、その中に込められた日本人の自然観について学んでみませんか？

令和5年3月26日(日)

【日時】 午前10時～12時

【講師】 下中菜穂さん(サポート 小原佐和子さん)

【対象】 小学生から大人まで(小学3年以下保護者同伴)

【申込】 申込先着順・20名(図書館までお電話でどうぞ)

【場所】 紀宝はぐくみの森2階 活性化ホール

【持ち物】 ハサミ、カッター、眼鏡(必要な方)

【材料費】 ¥500

下中菜穂さんプロフィール(しもなかなほ/造形作家 もんきり研究者)

江戸時代の切り紙「欲切りあそび」を通して「かたち」に込められた祖先の暮らしや文化、自然観などを紹介。国内外で切り紙の文化をフィールドワーク。文様を暮らしの中で使い、楽しむ生活文化を現代によみがえらせるべく活動中。書籍に『こども文様ずかん』(平凡社)など。映像の百科事典「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」の活用チームとして、アーカイブ映像の実験的な上映会やワークショップを企画。どちらの活動でも、歩いて、出会って、観て、聞いて、感じて、やってみる。手や身体を通して「過去からの贈り物」を受け取り、手渡して行くことがモットー。

みえ森と緑の県民税

森林には、きれいな水を貯える機能や地球温暖化の防止、農士の保全、遊しや健康増進など、私たちが限られた生活を送るために欠かすことのできない大切な働きがあります。しかし、山村地域の過疎化や林業の不振などにより、手入れが不足した荒廃森林が増えています。異常気象が増加していることも考え合わせると、自然災害の発生リスクが高まっていると考えられます。そこで、県では、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、「みえ森と緑の県民税」を平成26年4月1日から導入しました。県と市町が、「2つの基本方針と5つの対策」に沿って、「みえ森と緑の県民税」を活用した取組を行います。三重県公式ウェブサイト/三重の森林づくりHPより(一部抜粋)

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名					
3	クマノザクラ整備事業					
事業費	135,520 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			135,520			

1. 事業の目的
<p>野生種の桜として、2018年に約100年ぶりの新種発見と発表された紀伊半島南部の「クマノザクラ」を新種と確認した森林総合研究所の勝木俊雄氏や三重県樹木医の中村昌幸氏等と連携し、地元における整備・普及啓発の取組みを行う。</p>
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】</p> <p>森林総合研究所の勝木俊雄氏と三重県樹木医の中村昌幸氏の研究により生成された、クマノザクラの苗木を鶉殿地区と大里地区において植栽整備を行った。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】</p> <p>紀宝町</p> <p>【実施個所及び箇所数】</p> <p>鶉殿地区 (ふれあい会館裏広場)、大里地区 (田代公園)</p> <p>【事業量】</p> <p>クマノザクラ苗木25本 (鶉殿地区15本、大里地区10本) の整備</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
<p>【事業実施により期待される効果】</p> <p>クマノザクラに対する理解や関心が高まるとともに、植樹による整備場所の価値向上、森林に対する理解を深めることができた。</p> <p>【効果を発揮させるための工夫・取組】</p> <p>クマノザクラについての普及啓発、今後の研究箇所として活用。</p> <p>【新たな対策・視点及び改善点】</p> <p>例年行っている事業で、調査研究・普及に適した場所を選定した。</p>

令和 4 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
3	クマノザクラ整備事業				
事業費	135,520 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			135,520		
4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】					
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】					
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考	
委託事業	建設業者	補助事業ではない	該当なし		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】					
植栽する場所を整備するにあたり、町建設業組合に加盟している業者であり、過去に他地区において植栽整備の実績のある業者を選定した。					
【主な経費内訳】					
(別紙のとおり)					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【受益者及び、期待する波及効果】					
受益者	鶴殿・大里地区住民、ふれあい会館・田代公園利用者				
期待する波及効果	クマノザクラ及び森林等に関する関心が広がる。				
【公的関与の必要性】					
貴重な品種の植物であることから、行政機関、研究機関等の関与は必要である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
町による管理のもと、転用や目的外使用は想定されていない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の内容】					
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）			
HP掲載	実施前・後				
のぼり設置	実施中	植栽箇所			
パネル展示	実施後	役場庁舎内			
7. 写真及びその他資料					
別紙のとおり					
8. その他特記事項（受益者の反応等）					
今後のクマノザクラの成長に期待を寄せる声や、自生しているクマノザクラの調査へ関心を寄せる声もあがった。					

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町
------	--------------------	-----	-----

事業名	クマノザクラ整備事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単 位	数 量	単 価	金 額	備 考
クマノザクラ整備 (25本分)	資材費	式	1.00	7,920	7,920	産業：林業振興費：需用費 ：消耗品費等
	植栽場所整備委託料	式	1.00	127,600	127,600	産業：林業振興費：委託料 ：みえ森と緑の県民税市町交 付金事業業務委託料
			合計		135,520	

第 1 1 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	クマノザクラ整備事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1
クマノザクラ整備 (鶴殿地区)



写真2
クマノザクラ整備 (鶴殿地区)
森林研究所 勝木氏、NPO法人熊野さくらの会 田尾氏



写真3
クマノザクラ整備 (大里地区)



写真4
クマノザクラ整備 (大里地区)
森林研究所 勝木氏、NPO法人熊野さくらの会 田尾氏



写真5



写真6